臺灣日日新報　昭和七年十一月十七日（木曜日）　第一萬一千七百十四號　（一）
（第二版）（原請聖鑑）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

臺灣昌新報

十一月十六日
夕刊定價一部五錢

新しく組織する委員會に附託か

八章だけを採擇した上

聯盟筋での豫想

報告書最後の二章

【ロンドン十四日發電】聯盟理事會は豫定の如く二十一日より開會されるが、今や歐洲各國は擧げて米國總選擧に注意を拂はれ、總選擧は第二義的の關心しかつながれてゐない、併しながら來るべき會議が日支問題の處理に如何なる方針を採るかに關しては非常の興味を以て各方面では、聯盟はリットン報告書の最初の八章は採擇され、調査團の勸告を含んだ最後の二章は米國及びソヴイエート兩國の代表を加へた各國委員を以つて新しく組織されたところの委員會に其の審議が附託され、該委員會は出來得る限り報告書の勸告を基礎として解決案を案出するであらうとの興味ある豫想が行はれてゐる

我意見書研究の爲數日間は休會せん

祕密會議で私的折衝

【パリ廿四日發電】十二日開かれる聯盟理事會第二日の會議では松岡氏に支那代表の演說があるわけであるが、我意見書が聯盟より各國に配付されるのは二十日頃で、各國はこれを充分研究する餘裕がないので理事會は第一日後數日間休會狀態に入り、祕密會で私的折衝を進めることとなると見られてゐる、松岡氏が行ふ演說は我意見書の骨子を主とするものと見られてゐるが、現に內理事會その第一委員會に於けるリットン報告書の勸告を基礎として解決案を作成するであらうとの豫想が行はれてゐる

松岡氏の演說草案

本省と打合後起草

注目さるる同代表の第一聲

【パリ十四日發電】松岡、佐藤兩全權は十四日午後パリに於て會合し、先づ日本の公明な態度を主張するため、無條件で脫退する事に意見を一致した、此の打合せ會議は十四日午後も午前に引續き四時より七時迄開かれ、三時間半にわたつて續行された結果、一先づ大體打合せは完了したが、尙ほ若干の點に關しては更に訓令を仰ぐ必要があるので、松岡全權は十八日正午頃までに歸京の上、更に政府の最終的訓令を受けて歸任することとなつた、此の打合せ會議の席上、松岡全權より日本代表部の最後の態度として聯盟に對する聲明書を提出、之が審議に入つたが、本會議に於ける聲明書は、大體大綱は決定したが、本省と打合せた上十五日より數個の點に關し取りかかる筈となつた、目下の豫定では聯盟會議は二十一日に總會を開き、松岡代表は第一番に登壇する筈である

意見書を訂正

わが政府に請訓

【パリ十五日發電通】日下松岡全權は本省と緊急打合せ會議を開くため、パリに於て聯盟會議の經過に關し、本省に報告するの外、聯盟總會に於ける我意見書の訂正に關し、本省の訓令を仰ぐ必要があるため本省に歸朝することとなつた

わが意見書全部纏まる

十八日正式に提出

【パリ十五日發電通】聯盟關係の我代表部では、松岡、佐藤兩全權の歸朝後、本省の吉田駐佛大使と緊密連絡の下に、我意見書の最終的訂正を行ふ事に決定、十八日正午までに聯盟へ正式に提出する筈である

佛國の新軍縮案

十四日發表さる

【パリ十四日發電通】聯盟關係筋の觀測では、佛國の軍縮案は十四日發表されたが、全般三部に分れ大體左の如し

一、第一部に提示された陸軍に關しては、常備の現勢的均等化を提案すること

二、不戰條約を援助し侵略國に對しては直ちに財政的經濟的壓迫を加へること

三、相互援助の原則に從つては被援國は他國の援助を求め得ること、又如何なる援助が與へらるべきかは聯盟理事會の決定に任ずること

【ジネバ十五日發電通】フランス外務省が十四日新軍縮案を發表したことに依つて軍縮會議は俄かに活氣を呈して來た、第一にドイツの再軍備問題、第二に佛伊兩軍備擴張問題が始まつたことである、而して英外相サイモン氏の聯盟ならばドイツ外相フオンノイラート男は二十一日ジネバに來り軍縮會議に參加すると共に軍縮問題の討議にも參加するであらう

英が勸說すれば獨も參加か

ジネバでの觀測

【ベルリン十五日發電通】ドイツ政府はフランスの新軍縮提案に對し內閣を開き協議したが、ドイツは佛國とならぶ陸軍を公表した、ドイツはフランスの新軍縮提案をもつて武の平和的解決と認めず、軍縮會議を更に開くも今後五ケ年間延長せんとする提案をもつて對抗するであらう、ドイツ政府部內でも又軍部內でも、この提案をもつて全般的軍縮會議を決裂に導くべきものなりとの意見が強く、ドイツ代表に對し強硬なる態度を採るべきことを訓令したものである、ドイツ政府はこの提案を以て

國益を害すること甚しき
檢察官辛辣な論告
金密輸事件の大公判

臺北州下に於ける金密輸事件の被告二十四名にかかはる第二次公判は既報の通り十四日午前九時から午後四時まで臺北地方法院刑事庭（部）に於て龍岡檢察官が事實審理を行つたが、即に十六日は午前十時より同法廷に於て檢察官、三名の辯護人及び被告二十四名が出廷、被告人も弁護人も孰れも、折尾、安尾、李の十五名の人出廷の下に中村檢察官の論告に入り、本件の犯行は國家の財政權を侵害し、而も相當多額の金を國外に出し國益を害すること少ならず、情狀頗る重きものがある旨述べて、昭和六年十二月勅令第六十七號に規定する法定刑のうち、懲役刑に近きものを科すべく、仍て懲役刑を科するに非れば罰金刑では犯罪を防遏し得ないものである旨を述べて左の通り求刑した

△檢役八月　臺北市大正町四の二七　金銀細工商　劉水旗（三〇）
△同　十月　同　日新町一の一九〇　同　陳森（四）
△同　四月　同　榮地町五の九　公司代表者　吳明德（三）
△檢役八月　有明町一の五八　金銀細工商　倪水晨（三）
△同　四月

同　太平町三の二〇四　地金商　鄭謀（三）
同　四月　太平町三の二〇四　同　李水化（三）
△檢役五月　臺北市大平町二の二六　雜貨商　林迪枝（三〇）
△同　四月　同太平町四の二八九　裕成公司　章松（三）
△同　二月　陳開榮
△同　六月　臺北市榮町三の四　商業　魏天性（三）
△檢役四月　臺北市蓬萊町四四　裕成公司　鄭文標（三）
△檢役三月　同　陳水標

△檢役二月　臺北市日新町三の一四　弁護士通譯　張友聿
△同　二月　何石成
△同　三月　李水化
△檢役五月　臺北市大平町二の二六　雜貨商　林迪枝（三〇）
△檢役十月　基隆市明治町三の三二　海產物商　魏清題（三）
△檢役五月　臺北市日新町二の一三四　國業　魏天性（三）
△檢役四月　臺北市蓬萊町四四　裕成公司　吳金水（三）
△檢役三月　同　陳水標
△同　百圓金五十圓　王一平
△同　百圓　臺北市太平五の四八　裕成公司　許盛（三）
△同　金二百圓　臺北市大橋町　陳金川（三）
△同　金百八十圓　張燎
△同　金五十圓　臺北市太平町四の五四　裕成公司　吳金水（三）

長崎無線電信局
處女通信を始む
臺灣、滿洲への海底線は
早晩廢止とならう

【長崎十六日發電通】長崎無線電信局（從來所在地）は今般米工事中の所北西來町（新築）に移轉し、愈々廿日のテストを終了し、廿一日から愈々新局にて、十六日朝から滿洲、臺灣はもとより遠く歐洲方面とも交信し得るものである、初めて電波を發射したが、同局の開設と共に歐洲と直接通信を開始したが、同局の開設は從來海底線に依存し來つた我國對外通信界に一大革新を與へるものとして注目されてゐる、從來臺灣、滿洲、歐洲間の通信は總て海底線に依存し來つたが、海底線は事變の場合には破壞される危險が多いので、從來から無線電信局の設置が要望されてゐたが、今回愈々實現したもので、從來の海底線は平時は勿論、事變の場合でも出來る限り使用し、無線電信局は海底線の補助的使命を果すこととなつてゐる、尚ほ

續殘月譜

(44)

志乃田廸司作
清水三重三畫

留守の間に（一〇）

何処となく、寒気して、入つて来る政枝の顔を、チラリと見ると、お谷はみつめて居るのだ。

「どうら？」

と、駄三の開くのも耳に入れずにじつと、じつと、いつまでも。

「御女中、何方へ行つたら宜しいか」

と、駄三に呼びかけられて、お谷は、はつ、と驚いたやうに。

「さ、どうぞ、こちらへ」

と、奥の間に案内した。

それに続いて、政枝が——。

「あの——」

お谷は、よ、と、口籠つた。

「え？」

政枝が、眼付いて聞き直すと、お谷は、につこり笑つて。

「いいえ」

と、答へた。

庄右衛門と、お谷は、まだ半信半疑ながら、駄三の顔を部屋の入口に向けた。

駄三が、ぢいと、睨んだ。

「お久しう」

と頭を下げるのを見て。

「あつ！」

お谷が先づ驚いた。

「おお！誰かやつたと！」

庄右衛門も驚いた。

「まあ、生きて、生きて——」

と、お谷は、それより云へなかつた。

「御無事で何よりで御座います」

駄三、につこり笑つて頭をあげた。

「ほんに、生きておいでちやつたなあ！」

「聞つたと云や、誰方は、まあ、何と云ふ強らない人ちやいた」

お谷が驚いて云つた。

「もう、死なしやつたとばかり思つて、お線香を上げて居りましたわい」

「死んだと思つて——！」

と、駄三、意外と顔付で。

「さつきから聞いてりや、何だかなあ！」

「聞つたと云や、誰方は、まあ、何と云ふ強らない人ちやいた」

お谷が驚いて云つた。

「もう、死なしやつたとばかり思つて、お線香を上げて居りましたわい」

「死んだと思つて——！」

と、駄三、意外と顔付で。

「さつきから聞いてりや、何だかなあ！」

「じかし、すつかり驚りましたね、ちよいと驚になりますわ」

「庄右衛門さん、どの位生きるか聞りません」

「庄右衛門が嬉しさうに云つた。

「生きて居ますとも、はい、此の駄三は相場らすの、にこ——で」

「お谷が驚いて云つた。

「もう、死なしやつたとばかり思つて、お線香を上げて居りましたわい」

「死んだと思つて——！」

と、駄三、意外と顔付で。

「さつきから聞いてりや、何だかなあ！」

「じかし、すつかり驚りましたね、ちよいと驚になりますわ」

「庄右衛門さん、どの位生きるか聞りません」

「庄右衛門が嬉しさうに云つた。

「生きて居ますとも、はい、此の駄三は相場らすの、にこ——で」

再び提琴競演會に就いて（三）

富田嘉明

ブラームスのハンガリアン・ダンスに就いてレチニヨの御説明には恐縮する。私はレチニヨなる故にもつと明確に而も簡潔に述べなければならないと思つてゐるのである。ゴヤ——とやれとは言はぬ。イザイのレコードは私も持つてゐる。私にはイザイを知つた自慢なおこがましい気持は持つてゐないが、第一主題の感覚的な力強さに就いて所謂レチニヨの部分の感覚さをもつとよく表現して呉れたレコードを欲望したことがある。満洲に現住してゐる人の中では満鉄の小竹夫人の演奏は一番私を感動させた。其に就いては前回にも色々言及に就いては前回にも色々言及したのであつたけれど紙幅が不足だつたので略したが、都合とで優等生は満鉄の小竹夫人の演奏は一番私を感動させた。其に就いては前回にも色々言及したのであつたけれど紙幅が不足だつたので略したが、都合とで優等生は満鉄の小竹夫人の演奏は一番私を感動させた。其に就いては前回にも色々言及したのであつたけれど紙幅が不足だつたので略したが、都合とで優等生は満鉄の小竹夫人の演奏は一番私を感動させた。

ハンガリアン・ダンスの二重奏部の低音が全く音程を外れたことは前述して置いた。二重奏の演奏に関しての心得として最も大切なことは相手の音を聴くことである。発音の遅速は勿論のこと強弱の点に至るまで相手の三番目の音と全く同時に発音するやうに心掛けねばならない。

発音の遅速に全部を通じて非常に敏感な注意が払はれてあつた。今回は未成品の点もあるが将来は楽壇の重鎮たる可き人物である。

ブラームスのハンガリアン・ダンスの二重奏部の低音が全く音程を外れたことは前述して置いた。二重奏の演奏に関しての心得として最も大切なことは相手の音を聴くことである。

漢文臺灣日日新報

政府修正意見書 至十八日正式提出

十五日巴里電。聯盟帝國事務局。今朝與到寄巴里之吉田駐土大使所携政府修正意見書對照。審查結果。確知無礙。乃將此意見書。至十八日。欲正式提出於聯盟。

聯盟對策及意見書 皆已完成當爲盡力 松平駐英大使談

十五日巴里電。松平駐英大使。與松岡。佐藤。長岡各代表會。開聯盟代表部會議終了。十五日正午。發巴里赴倫敦。十八日頃。將往羅馬。出發時語記者曰。對聯盟理事會之我代表部對策。及意見書皆已完成。從此當盡最善努力也。

川崎大尉以下五十八名 關東軍確認其全滅

十五日東京電。宮戶枝隊所屬川崎大尉以下五十八名。全滅乙事。關東軍於十五日。有報告到陸軍省。十月末以來。川崎大尉以下五十八名。行蹤不明。以兵力搜查中。戰死似已確實。

法國軍縮案大要 十四日發表全章三部

十四日巴里電。法國軍縮案。十四日發表。全章分爲三部。大要如左。

一、提示於第一部案中。提案準備之積極的均等化。

二、保障不戰條約。對侵略國。即取財政的經濟的行動。

三、相互援助之完備。被侵略國。得求他國援助。當作如何援助。一任聯盟理事會決定。

四、縮小歐洲諸國境軍隊。不設備可動性重兵器。委諸聯盟使用。

五、禁空中投下重爆彈。禁民間機軍用。

六、海軍另以一般條約制限之。

帝國農會 反對疏安統制

十六日東京電。疏安價格。近臨屆實。四五月頃五十國者。今已百十國。超二倍以上。然農產物。殆不起價。農村經濟。深受其害。帝國農會。乃決定反對昂騰主因疏安配給組合統制疏安。

玖馬砂糖 無甚被害

去十日旋風。玖馬島被害調查進行。世界砂糖市場無甚影響。即吹倒甘蔗中七成。得以收後。雖三成柔却。亦得六百萬噸生產。當逸過千九百三十三年產額制限一百萬噸。又砂糖被害達三十乃至三十五萬噸。此亦得相當精製而使用也。

蕉作研究會 局長訓示 並會員講演

臺灣蕉作研究會。十五日午前九時。開會。十二時。散會。午後一時。開評議員會。決定事項如左。

一、關於蕉作研究事業。

二、關於蕉作研究事業費。

三、關於蕉作研究會會則改正。

四、其他。

臺大農林生 就吉野村經濟 研究答案

臺北帝大農村部生徒二十名。從吉野村經濟。研究。已經一週。昨日午後。在該村役場。開研究會。出席者。村長以下。村會議員。及村內有志。各自發表研究之結果。

全國兒童 榮養週間

第二回全國兒童榮養週間。自今日起。向後一週間。即至二十一日。由財團法人中央社會事業協會主唱。內務省。文部省。後援之下。實施。其目的。在乎圖謀兒童榮養之智識普及徹底。特擇定圖於貧困兒童榮養改善之途。以資兒童之發育。更全國各地方施行。地方實施事項如左。

一、關於週間實施之宣傳。

二、關於兒童榮養之智識普及。

三、關於貧困兒童榮養改善之資金。

社會事業記念日 及臺北市之行事

臺北市役所。去十五日午前。舉行社會事業記念日。是日行事如左。

一、爲圖社會事業知識普及。在臺北市。各映畫活動寫真。

二、對在社會事業有功之市民敎化團安部。二十日。於本年町媽祖廟。十九日於龍山寺。各映畫活動寫真。

三、對在社會事業有功之市民敎化團安部。二十日。於本年町媽祖廟。十九日於龍山寺。各映畫活動寫真。

聖上陛下行幸 工業奬勵館貿易館

十六日大阪電。地方行幸第二日十六日。聖上陛下。先行幸府立工業奬勵館並貿易館。午前九時。由行在所御出門。自動車直駕。自本町而西。九時十分。臨工業奬勵館。參覽館內施設。於各種實驗。特就金屬研究標成本乡光太郎博士之「塑及物」御說明。深感興味。知覽約數分鐘。「鋼鐵切削面之分子配列」。十時四十五分。向府立貿易館。五十分著御。參覽對論貿易之大阪府主要貿易品。諸員奉迎。十一時四十分同館御發。五十分還行在所。晝餐。

爲救濟小商工業者 市籌設信用組合 組合長西澤市尹

臺北市役所。鑒于商工業者之窮狀。欲圖資金融通。乃基于臺北州通牒。致意于商業組合之擴大強化運動。遂與市內六信用組合。長。種々協議。而既設信用組合。得謀組合員大增加者。不過城南信用。及應務信用組合而已。又于貸出。則採月賦償還。年賦償還法。且有以商品爲擔保之貸出方法。然對小商工業者。全無融資之途。是臺北市役所。由西澤市尹。

元氣旺盛

風在開鑿中之制壓道路搜索隊。因審情牢固。著々。

開鑿路搜索隊

元氣旺盛

風在開鑿中之制壓道路搜索隊。因審情牢固。著々。

中外要電

比島賦課新關稅

從通貨下落國際入之抵憤。樹乳靴等。一双欲課三十。五仙關稅。此新稅案。十五日經比島總督署名。該案於翌日。菲盛頓。郭泰大統領署名後。發生效力云。

名士搭乘列車遲著

東海道線之運轉。至十五日朝。猶未復舊。十四日夜九時二十分。嘱著東京。

滿洲國關稅改正

滿洲國關稅改正。不得。

有吉公使啓程赴任

有吉駐華公使。目下與外務省。磋商對華政策。於十九日發東京驛赴任。

滿洲關係復活費目

外務省豫算。復活要求。十四日大藏省議。承認百二十六萬圓。滿洲關係費。

拓務省復活費目

拓務省復活要求總額五百萬圓中。承認二百四十三萬圓。（單位千圓）

經常部	一、一二〇
臨時部	三一〇
滿洲事件費	四三〇
在滿大使館經費	三〇〇
營繕費（大使館其他）	二八〇
移民奬勵費	八〇
鮮人補助費	六〇
其他	三〇

拓務省復活要求

拓務省。復活要求。總額一千二百萬圓。（單位千圓）

經常部	一、一六〇
臨時部	四〇
滿洲事件費	三〇〇
在滿大使館經費	二八〇
營繕費（大使館其他）	八〇
移民奬勵費	六〇
鮮人補助費	三〇
其他	拓務省復活要求目

合歡越道路 解散搜索隊

機員研海支隊長一行之合歡越道路搜索隊。去十一日正午。與第十州搜索隊合于州鑑界。磯商道路開鑿事竣。十二日下山。沿路再調查路線。途中野營一宿。十四日。抵加顆巴奧。十五日在同所。解散搜索隊。十六日歸抵研海云。

安平浚渫 豫算問題 愛市會活動

安平港明年度浚渫。費僅算九十萬圓。雖編入於督府明年度豫算。而提出拓務省。然該省以今次財政支出。對於臺灣之各地方費。非常節減。故該港浚渫費。力主節減。故該港浚渫費。有被削除之風傳。爲是。臺南愛市會。去十四日下午三時。集議會員。出席者有富本。黃欣。栗山。高島。川上外數氏。就該地浚渫費問題。

元臺灣弘濟會主事 詐欺業務橫領案公判

被告人之滿洲機會均等確保適當處置之川崇。滿洲國關稅改正之件。不得報告。

嘉市金融案 將開臨時協議

嘉義市定十八日午前十時。在市役所會議室。開臨時協議會。爲諮問既報對市內商工業者。小額金融補充。

參拜神社者 有擲石人家 致疑鬼祟

蘇澳金刀比羅神社。連來有參拜與童。及散步游客。歸途常拾石塊擲擲。散落於神社下之臨海道路。及大阪商船待合所。海南興業公司事務所。左右人家者。屋瓦多受擊破。損害甚大。就中林月波之妻前適臥病。時聞屋上落石之聲。疑爲鬼怪。每欲逃避。遠近住民。亦爲不安。後細查之。乃知學業遊客之所爲。一般行人。亦感危險。都望當局嚴檢云。

瑞芳庄晚稻

瑞芳庄內。晚稻收成。爲日來之暴風雨阻止。致之延期。被來二十日內。同庄內三百餘甲步。能得刈濟。本期因風雨順調。氣候佳宜。較與客年有增收二折除。比本年前期作。有七成半左右云。

八通關方面 到處結氷

八通關大水窟駐在所。去十四日氣温。俄降至三十六度。到處皆結氷。又研海支廳加賴巴奧。同日氣温降下四十五度。亦有結氷現象。

千山丸救助船那須 修繕龜裂及排除入水 現可免憂沈沒

既報在瑞芳庄被子寮灣內遭難之千山丸。其後來自東京之救助船那須丸。去十五日午前七時半到著。命潛水夫。向該船體。調查破隙之處。目下先對龜裂部分。加以修繕。一面遭難船內部作業。被破裂浸入水。以唧筒二臺。盡力排水。無沈沒之虞。又一方所救之貓石二千餘噸。先向遭難船加以錨鎖及纜鎖索。俾船體安定。然後欲卸落貓石使船浮上。（目下遭難船離海岸約三十米突）以使保家船曳出之也。

失踪者屍體 尋覓工作良難

爲遭難千山丸救助之陸上作業。自去十一夜半起。瑞芳監視官。及同地警官。野長監督官。及同地警官。十一月十日。於基隆町媽祖廟。十九日於龍山寺。各映畫活動寫真。

斗六青葉團 磋商事項

斗六街本島人運動團體之青葉團。月十五日午後八時半。在團員事務所。開評議會。協議對策。

高雄友信會 籌海員受驗講習 教授無海技員免狀者

高雄船舶職員法。顧問百八十九番地齋藤。同町四丁目五十四番地吳金水。蓬萊町四十四番地鄭文煌四名。各繳五六百圓之保證金。保釋歸宅云。

屏東郡小火 燒去屋蓋 拘裸體賣春婦

屏東郡屏東庄。張德之家。去十五日午前二時半。突然發火。警官及消防組壯丁團等。聞警馳至。協力滅火。幸僅燒去屋蓋鎮火。其原因爲石油燈置。眠床蚊帳。燃及屋蓋。然同家人。爲賭博開。科數犯。當局擬出於惡意放火。拘家人厳究中。又同時隣家。有新竹州竹南庄人。劉氏綿妹。年二十二。與屏東街歸來。途稱迪仔。年二十五。正歎治山。即及火警。即被檢擧。出戶外。

蘭陽方面 不正秤 使用減少

蘆北州。因遭冬景氣。市場商人等。乡使用不正秤。最近得總督。

高雄

船舶出入

高雄港。十月中出入船舶數。入港內國貿易船五十七隻。十五萬三千六百六十九噸。外國貿易船二十七隻六千三百七噸。出港二萬八千二十一噸云。

調查漁業

高雄州水產指導所方面之漁業。行程。調查期間。十八日間。來于十四日午後十時半。

捕前科犯

十三日午後十一時。高雄署安。

假出獄治病 又再竊物

澎湖廳西嶼庄竹灣。漁夫一〇四七前科四犯。陳番長。年三十一。本年四月十六日在獄中染病。假出獄治療。病件雖改。更竄身繫縲紲。八月十六日入嘉義。同日逐竊取嘉義市西門町佐藤園雄時計一個。及衣服價值二十五圓。後又竊取東石郡六腳庄蒜頭部管陽之現金二十三圓。四方潛匿。今回被高義署搜入。鈴木司法主任訊問結果。十五日移送臺南地方法院嘉義支部檢察局。

臺南東門外煉瓦工場 發生男女情死案 男工場員女荷蘭酒場女給

去十五朝未明。臺南東門外。煉瓦工場。又發生男女情死案。警部補。立偕許警部。託託醫官。驅赴現場相驗。男女各有遺書。其內容。男工場員女荷蘭酒場女給。與同棲關係。苦於經濟。及情夫關係。煩悶。遂相約自殺。男女各有遺書。其內容。男工場員女荷蘭酒場女給。與同棲關係。苦於經濟。及情夫關係。煩悶。遂相約自殺。

屏東

歲暮聯合大演習

屏東聯隊。定十二月一日。實行歲暮聯合大演習。本年度最大規模。

派所落成

屏東郡。鹽埔庄。警察官吏派出所。新築落成。舊。十二日。午前十時。開於當所。來賓自武田。屏東郡守。及保正。凡三百有餘名。席間有慶祝山氏。演劇餘興。

會葬

▲潮中州前醫會。及婦人會。昨夜地主徑之文部省社會教育課。託邑井良吉氏。之葬。開諸河會。去十四日午後七時。開於鹽。朝如常出市云。

高雄友信會 籌海員受驗講習 教授無海技員免狀者

高雄船舶職員法。顧問百八十九番地齋藤。同町四丁目五十四番地吳金水。蓬萊町四十四番地鄭文煌四名。各繳五六百圓之保證金。保釋歸宅云。

臺南

豚痘住與

臺南州衛生課。今回山東省青島。及滿洲國。各地。豚痘流行。例。

青葉團

青葉團。月十五日午後八時半。在團員事務所。開評議會。協議對策。

磋商事項

斗六街本島人運動團體之青葉團。月十五日午後八時半。在團員事務所。開評議會。協議對策。

檢查車輛

臺灣鐵路管理局。豫定。左記日程。檢查鐵路車輛。

檢查漁業

臺灣總督府。豫定。左記日程。檢查漁業。

賭犯

臺南市內。賭犯。

會葬

▲潮中州前醫會。及婦人會。昨夜地主徑之文部省社會教育課。託邑井良吉氏。之葬。開諸河會。去十四日午後七時。開於鹽。朝如常出市云。

屏東

歲暮聯合大演習

屏東聯隊。定十二月一日。實行歲暮聯合大演習。本年度最大規模。

派所落成

屏東郡。鹽埔庄。警察官吏派出所。新築落成。舊。十二日。午前十時。開於當所。來賓自武田。屏東郡守。及保正。凡三百有餘名。席間有慶祝山氏。演劇餘興。

臺灣日日新報

昭和八年一月一日　日本消防新聞社編輯（新刊）　四六倍裁美本全一冊

日本消防協會推薦

消防殉職者慰藉金募集

大日本消防協會

最近出題傾向號

受驗生必携

最近出題傾向と受驗生必携

東京麹町富士見町　研究社

●最近出題傾向　●昭和八年入學試験豫備問題解答　●綜合的專檢受驗準備の指導　●高校における學費問題解決　●外語畸人傳

受驗參考書

●日本史　●國文要語　●東洋史　●算術　●西洋史　●代數學　●日本地理　●平面幾何　●外國地理　●物理學　●漢文要語　●植物學

第一回發送十二冊書目

最小！最完書！！

稀有の受驗準備名著

定價各冊金五十錢（送料）

東京麹町富士見町六　振替東京二八六〇一　研究社

石井の体温計

醫師專用　外品の根を絶つ最高級品

前工省檢定合格甲

催眠鎮靜劑 アダリン

不眠症　神經衰弱

獨逸バイエル製　BAYER　AD 187

景氣立直りに備へる貯め方・儲け方・吾し方

大日本實業

日本商業

月刊

此機會に生活方針を樹立せよ

▲出揃つた景氣好轉の諸條件　▲財界は將に好轉途上にあり　▲景氣は愈々よくなるか　▲景氣立直り時の商賣策　▲景氣立直り小金の貯め方殖し方　▲貯金が殖れる土地の見方と買ひ方

▲インフレ景氣はいつ迄つづくか　▲小資本で出來る七面鳥の飼ひ方殖し方

必ず成功する滿洲進出策

▲坊主が憎けりや佛迄傷る勿れ　▲日の出ずし成功傳　▲本間俊平氏の血涙錄

未拂込み株所有者の法律的心得

○世界一の警視廳物語　○性病は恐い　○潛伏黴毒撃滅法　○横根痛の根本療法　○慢性淋病治せる

○中年期の憂鬱症

建築

大阪築港

大連通船

臨海鐵道

大連通船

臨海鐵道

大阪築港

建築

タンタンは風の妙藥

丸ノ内ビヂング

丸ノ内ビヂング

丸ノ内ビヂング

此際の政爭や政變を排す
非常時の重大性に思ひ及べ

政治シーズンに入ると共に早くも政界に動きありと傳へられ、中にも言ふところの政界巨頭間では既く政變あるべしなど噂さめいた事を言ってゐる者もあり、實に今日の國情は單に之を對外關係だけから見ても、左樣な政爭や政變つごつごなどに沒頭して居るべき時ではないのだ、それでは來るべき一日より國事會議開かれ之を機として本式に帝國國策の討議、戰時とも試みられやうとしてゐるではないか、その結果如何に依っては日本は國を擧げて非常な決心をも敢へてせねばならぬといふ場も重大な時機ではないか。

二

かゝる場合における各國民の關心が政局の如きものを輕忽問題として論ずるのは敢て言ふまでもない、今日の重大時局に際し我國の政策に種々の複雜を描かじめ人心の動搖を來すが如きことは極力避けねばならぬところである、況んや時局内閣は本年五月末の組閣であり僅か半歳を過ぎない、隊に内政上から論じても、議會の協賛を經た重大なる時局匡救策は尚實行の途中にあり、政策上から考へても現内閣が行き詰りを見たとも思へず、要するに之を政治の實際に當して何事特に二の際政局の轉換を必要とする理由を發見し得ないのである。

三

とは言へ裏面へ現れない迄も政界の暗流なるものに喘たならぬもののあることは疑めねばならない、この暗流は特殊内閣に特有のものではなく寧ろ動もか時限してゐるものであるとの見地より之が發展するものとするならば遠からず財政問題が其の題目となるのではあるまいか、過去において政友内閣當時の最大膨脹發展でも十七億餘であった、それが昭和八年度において二十億を突破し二十二億餘千萬圓の巨額に達し、而も其の歳字は擧げて公債增額に依て償はんとしてゐる且つ又茲に第二の經濟にも政治的に種々論ぜらるべきものがあるので國會開會ともならば之に對する批判は相當以上に硏究を見ねばやまぬのであらう。

五

然し吾人は現在の財政問題から政局を論じ批判したところで今日直に政變を起來すべしとの結論には斷じて到達しないものと信ずるも平常の場合に於ては政局問題になるかも知れぬが、今日最重してゐる時局の重大性に考察する場合それ等の問題は超問題たるもの、非常時國策の遂行に過ぎず、非常時國策の遂行に於ては國民をして政策に對する信用を回復せしめる所以であって一部限得ると申すべきだ、要するに吾人は此の際における政爭やそれに基づく政變等を斷じて排撃し挙りつつある重大時局に對し國民一致して當へることの必要を强調いたさねばならぬ。

政機は動く？
宇垣朝鮮總督の上京に
政友會深甚の注意

【東京支局十六日發電通】現内閣の財政政策に對する一般の信賴は明年度の豫算を以て最大なる試驗を受くるものであるとは、既に屢々傳へられたところである、從って政友會では此の機會に政權の回復を企圖して國田商相を通じて種々策動してゐるが未だ旗幟鮮明の域に達せず一旦つまづくの事か起ると政友會内部に動搖を來し、從って政權の回復も遠のくとの觀測から政友會では此の際政權の回復を斷念して一擧に政友會内閣の組織に出でんとの氣勢を示すに至ったので政友會ではこの

臺南州下五大橋
百萬圓の大工事
起債認可指令　近く著工
七、八兩年度に亙り實施

【臺中電話】臺中州當局では管下の中縣廳の管轄下の五大橋架設工事費百三十萬圓中八十萬圓の起債認可申請中の所、五日附にて左る八日認可の指令があつたので州土木課では五大橋　内二橋に二年

豫定で　架橋が進められてゐる、今回は五大橋の起債は同橋から四十尺以上を取り下げるもので鉄筋コンクリートを採用する橋梁迄二十五尺の起債認可指令を受けたもので同橋梁は二十尺以上に起債全部の五分は七十尺以上になる見込で州に於ては今後も出來る丈多額の起債を申請したいものであると

豐原郡煙草耕作
表彰式擧行
參列者七百餘名で盛況

【豐原電話】豐中州當局管下に於ける昭和煙作組合設置式は十三日午前八時半から豐原公會堂に於て行はれたが參會せる組合員六百三十名、大甲郡・四林區、大甲郡の耕作組合代表者及び組合員百名の參加あり盛會裡に終了有の

盛會　ですが…
訓示

奥村郡守支島長の自力更生實施の挨拶、來賓の祝辭等ありて十一時半散了し旅館に於て組合長會を開き、午後一時から豐原公會堂に於て表彰式を擧行したが、豐原外二十名、那覇八百名同上外三十三名へは賞狀を授與、竹下知事の

同業者　ですが…
値を下　げて競爭

日蔗糖業組合聯合會では、來る二十日より臨時總會を開催して自家用砂糖の値下を斷行して自家の犧牲に於てその金が會中に消えてなくなつたので、臺中製糖會社に於ては今回の値下げ斷行に就ては何等の考慮も拂はない、關係すると共に小賣商人等の利益を擁護する必要がある、しかるに昨今の情勢では安値が期待であるから成行にまかせる外ない

同業者　中でも煽りの大
金山庄に　豚虎發生

高雄郡金山庄下中股南方三六六番地の養豚業者呉氏が昨夏以來飼養中の豚四頭が十五日朝突然變死したので獸醫檢査の結果豚虎發生が判明したので關係者は勿論部落民は非常に恐怖し、取敢ず同庄役場に屆出た、なほ同庄内の養豚業者は約五百名で飼養豚は約二千頭に上つてゐるが、今回の豚虎發生は同庄内の養豚業者に多大の脅威を與へてゐる

喧嘩で　雙方とも重傷

【嘉義電話】嘉義市安明三ノ三五番地材木業陳阿水（三五）は十五日午後四時頃同業陳阿三（三二）と材木置場に於て作業の順序から發展して喧嘩となり、互ひに手當り次第の材木を以て殴り合ひ陳阿水は頭部に重傷を負ひ、陳阿三は左手首を骨折し兩名とも嘉義病院に入院加療中であるが、陳阿水は重傷の方で生命も危篤であると

主人の留守中
呉服を投賣り
番頭の惡事露見す

【臺中電話】市内千歳町呉服商某方の店員某が主人が内地へ物仕入れに行つた留守中主人が内地の仕入先で金がいるから送れと云ふ旨の電報がつき次第に賣付を行ふと稱し高價な反物を半値同樣の値段で賣歩き數百圓を詐取してゐた事實が發覚し昨日某方へ主人が内地から歸臺後被害者數名が同店に來て詰寄つたので番頭は元金を被害者に支拂つた殘金は主人に渡すと云ふ事で解決したが番頭は遂に同店を

慰勞會
十三日臺南州新豐公學校長敏腐業の慰勞會を開催したが參會者は百二十餘名で會費は一圓宛醵出し會場に於て餘興として演藝

ラヂオ版

今日の番組

十一月十七日(木)　J.F.A.K

午前の部

【六・三〇】朝の挨拶ラヂオ體操(今日のお天氣のお知らせ臺北測候所發表)
【八・〇〇】家庭百科問答(臺北)
【九・三〇】家庭百科問答ヘ福神漬の千枚漬の作り方ヘニキビに石鹸はヘ赤ちゃんが泣かないのに涙を出しますヘ
【一〇・〇〇】家庭料理獻立ヘ四節の肉煮ヘ小鉢、キャベツと鳥賊と人參の酢花生和へ
【一二・〇〇】日用品小賣價格發表(臺北市西門町)
【一・〇〇】氣象通報(臺南のみ)
【五・〇〇】子供の時間(東京)
【七・二〇】子供の新聞(東京)
【五・二〇】趣味講座(臺北のみ)
數學雜話(その三)臺北帝國大學教授松村宗治
【五・三〇】趣味講座(臺南のみ)
日本婦人と刺繍(その一)龜田秋作
【五・五五】カレント・トピックス(東京)ハロルド・パーマー
【六・〇〇】子供の時間(臺北のみ)數話と唱歌臺中市新高小學校兒童(六年古室胡子(他)二、三年組(二年甲組六年古室胡子(他)四、二部合唱「旅路」(山本明雄外)五、三部合唱「犬の西歐一郎(外)六

午後の部

【〇・〇〇】放送局總括ニュース(東京)
【〇・一〇】管絃樂時間(レコード演奏)流行歌一、忘られぬ花池上利夫二、時雨ひとどき渡邊芳枝三、口笛吹いて松本不二男四、噂の男淡谷のり子五、乙女ごころ丸山和歌子七、鯉おけさ池上利夫八、戀セレナーデ鈴木武子
【一・二〇】氣象報告
【二・五九】正午の時報ヘ氣象通報(臺北のみ)臺北測候所發表
【六・三〇】夜間の部ヘ子供の時間(東京)未定ヘ七・〇〇ヘ交響樂(大阪)曲目未定ヘ大阪朝日會館より中繼ヘ實業協會ヘ七・三〇ヘ講演(東京)未定ヘ七・五〇ヘ婦人の時間(東京)未定ヘ八・三〇ヘ講演ヘ八・四五ヘ長唄「忍び車」出囃都連女、三味線伴奏後藤、同清壽都千二、四季の山姥囃子方、同歌舞伎、三味線伴奏後藤、同清壽都千二ヘ九・一〇ヘ時報、氣象通報、臺北測候所發表、臺北ニュース(臺北のみ)放送局編輯ニュース(臺北のみ)放送局新報ニュース(臺南のみ)公示事項告知事項、明日のプログラム發表

夜間の部

美しく撮りたい 結婚記念の寫眞

かたくなるのが一番禁物

厚化粧は顏を平面にする

御結婚の記念に新郎新婦が一緒に撮影を勸められることがございますが、これはすべて厚化粧にしなければなりませんので、お顏を最も綺麗に寫すことを申上げてみたいと存じます。まづ式服の場合を申しますと……乙女御はお綺麗にしますと、お顏をきつく見せます。口紅もよく大きくうつり勝ちですから、眉は少し細くおとりになる場合は何時も御化粧が宜しいということになります。

それから一般的の注意といたしまして、大切なことは第一に氣分が悪い時氣分のすぐれない時は顏色も悪く寫ります。頭痛や胃腸の工合の悪い時にはなりません。心持のよい時々した時、かたくなりずに自然のままをおうつしになることが好ましく存じます。

トキ色と云ったやうなものが宜しいと思ひます。赤は寫眞にはなりますと黒くなつて引立ちません。手は出来る丈大きくうつつて頂くと云ひますがこれはその場所或は寫眞台にも色々ありますが、お召物のゆきなどが最かいやうな場合に適して能く出まして、その時の上着が大變に大きく見えるやうな感じがすることもございます。これは手はお顏より幾分間に出て居りますので比較的大きく見えるといふお心持であらうと存じますが、その點に大きくうつる點ではありません

手や足の置き場所等は、臨機應變にお任せになつた方がよろしうございます。次に化粧ですが、これはすべて厚化粧に好ましくないのでございます。厚化粧に平べつたくうつるものでありますす。又まゆずみも餘り濃いのはおよしになつた方がよろしいと存じます。口紅も餘り濃くいたしますと、お口もとが大きく大きくうつり勝ちですから、口紅をおとりになる場合は何時も御化粧が宜しいといふことになります

それから一般的の注意といたしまして、大切なことは第一に氣分が悪い時氣分のすぐれない時は顏色も悪く寫ります。頭痛や胃腸の工合の悪い時にはなりません。心持のよい時々した時、かたくなりずに自然のままをおうつしになることが好ましく存じます。

家庭百科問答

【午前九時一十分】(臺北)

▲背中の千枚漬の作りかた
▲ニキビに石鹸は
▲赤ちゃんが泣かないのに涙を出します

砂糖　大匙半杯
醋　大匙半杯

忍車と四季の山姥

【四五】北一

唄　三味線　竹屋彦男
三味線　齋藤靜子

【後八】臺

忍車

手管に客を待つ、夏は涼しの蚊帳の内、比翼の蓋に月の影、秋はさながら緑先に、三味線鳴いてしんき節、聲の亂れを雪で、かきあげながら撥鋒、眠る窓に無理ばかり、ほんに辛いわやないかいな、同じ思ひに寢る鐘の音、明渡しの、

四季の山姥

唄　占部愛子
三味線　竹屋彦男
胡弓　齋藤靜子

談話と唱歌

【午後六時より】

臺中市新高臺常高等小學校

臺中の新高小學校の兒童の方々が臺北へ修學旅行の途次放送されるものです

一、談話(校長)　熊部　三郎
二、唱歌(一)(二年生)　(二)(六年生)　(三)(六年生)　(四)(五年生)
三、唱歌(一)(二年生)　(二)(六年生)　(三)(六年生)　(四)(五年生)
四、二部合唱(一)(二年生)　(二)(六年生)　(三)(六年生)　(四)(五年生)
五、三部合唱(一)(二年生)　(二)(六年生)　(三)(六年生)　(四)(五年生)
(一)(二年生)　(二)(六年生)　(三)(六年生)　(四)(五年生)

コドモノ時間

書間娯樂時間

【午後零時二十分】(臺北)

▼流行歌
一、忘られぬ花の…【西岡水朗作詞　江口夜詩作曲】池上　利夫
二、噂の男そのかみの…【西岡水朗作詞　江口夜詩作曲】淡谷のり子
三、口笛吹いて今日も暮れよ…【西岡水朗作詞　江口夜詩作曲】松本不二男
四、時雨ひとどき…【佐伯孝夫作詞　江口夜詩作曲】渡邊　芳枝
五、乙女ごころ…【佐伯孝夫作詞　江口夜詩作曲】丸山和歌子
六、鯉おけ…【藤浦洸一作詞　長津義司作曲】池上　利夫
七、戀セレナーデ…【藤田まさと作詞　佐々木俊一作曲】鈴木武子
▼曲目未定　實塚交響樂協會(大阪朝日會館より中繼)

交響音樂(大阪)

【午後七時より】

◇…ハロルド・パーマー…◇

趣味講座(臺南のみ)

【午後五時二十五分】

▼日本婦人と刺繍(その二)　龜田秋作

カレント・トピックス(東京)

英語のニュース　【午後五時五十五分】

◇…ハロルド・パーマー…◇

家庭料理獻立

【午前十時十分】(臺北)

一汁二菜

飯　三膳位
汁　大匙五杯
香の物　少々
大匙五杯

家庭モメ

庭の洗濯法

洗い物の洗濯法　洗い物の洗濯法は、先づ盥に水を入れ、洗ひ粉を溶かして、洗ひ物を十五分間つけておき、汚れを出させてから、盥の中で、つかみ洗ひをします。石鹸はアルカリの強いものは、布地を痛めますから、中性石鹸を用ひます。洗ひ粉は、洗ひ物の汚れの程度によく應じ、つかみ洗ひをしますと、洗ひ物の布地を痛めることが少なくてすみます。次に洗ひ物を水洗ひをします。水洗ひは、洗ひ粉を洗ひ落すために、充分に水洗ひをします。次に洗ひ物を脫水機にかけて、脫水をします。脫水機のない場合は、洗ひ物を、よく絞つて、水洗ひをします。次に洗ひ物を干します。干すには、日光に當てて、乾かすのがよいのですが、日光に當てると、色の褪せるものは、陰干にします。

食物の料理法

冬ばれる薩摩汁の作り方

◇…肉は骨付のもので結構です

泥かくて冬の食卓に喜ばれる汁物の料理として薩摩汁を擧げてみます

今この料理法を述べてみます

◇材料◇
鳥肉五十匁、人參二本、大根二本、牛蒡小一本、甘藷一個、里芋一個、味噌二十匁、醬油二匁、みりん酒二匁、味噌二匁、醬油二匁、みりん酒二匁、味

◇調理◇
鳥肉はかさく細切り、人參、大根、甘藷は薄く輪切り、牛蒡はささがき、玉ねぎは分位に細切り、生姜は千切りとしておく、鍋に油を入れ、鳥肉を炒めて、人參、大根を入れ、水かたになるまで煮込み、次に甘藷を入れ少し煮てねぎ、生姜を入れすべての野菜の軟かになつた時味噌を入れ醬油を少し加へて煮て出す

注意　鳥肉は薩摩汁に用ふるものは上等のものでなく骨付のものにてよし、この場合たい汁のある時は野菜と共に鍋の中に入れ煮込む方がよい上等の軟かい肉の場合には煮り揚げから長く煮ると却つて固くなり味が惡くなる

最近著の新刊

△朝倉榮(十一月號)人參榮生(十一月號)ヘアチュア映畫(十一月號)ヘアレット(十月號)ヘ婦人グラフ(十一月號)ヘ婦人倶樂部(十一月號)ヘ婦人畫報(十月號)ヘ婦人之友(十月號)ヘ婦人公論(十

優良品種育成を四段に分けて試験

山崎糖業試驗所技師の發表

蔗作研究會の第二日

第二十二回糖業蔗作研究會大會は(二日、十六日)は午前九時より製糖會社にて開かれ前日同樣前田總督閣下、岡田糖業試驗所長を始め關係官廳、同業會社等參會し低調の裡に二日間山崎糖業試驗所技師、三宅帝大教授の講演あり翌三日午後三時より同所にて閉會した

出席　出來ざりし大島理農部長に代つて臺北帝大の藤原教授が出席するところあり一同午後臺北帝大を訪問して解散したが、山崎糖業試驗所技師の「蔗種について」の講演概要次の如くである

甘藷の優良品種育成は爪哇では古くから行はれてゐるが英領印度のコインバトウル試驗場でも印度人ベンカタラマン氏が主任となつて盛んに育成をやつてゐる、爪哇、印度兩地における交配品種の系統圖表を示して說明す、(講演では約二千の品種から二十五萬本の

蕪苗　を得てエラー號から百五號までの新品種を育成し即ち兩國二千五百本から一本の割でエラー種が出來たことになつてゐる、右は新化學肥料における過去の實績であるがビーオーゼ一二七一五號以上に優秀なものは得られなかつたやうである、尤もこについては三月に續付け翌年三月に

收穫　して相當有望品種を得たのも九月又は八月に植ゑた爲めに成績がよくないといふ事情もあるやうに思ふ、新設糖業試驗所では新品種の育成方針につき四段の方法を採らんとしてゐる、第一段はその地方の風土に適するものを選んが爲めに野生種に交配種を交配するもので、蔗種では竹蔗其他の在來種の特性を尊重しこを母生種として

交配　に採用するのである品種改良の基礎工事としては當然やらねばならぬ、第二段は斷然優秀な優良種と優良種とを交配するもので、タトヘば爪哇でやつてゐるやうにイーケー二八號にビーオーゼ一二七一三號をかけるのである、第三段は世界各國からあらゆる品種を取寄せ各國でまだ交配に使つたことのない品種を交配して新品種を育成するのである第四段は從來

爪哇　其他で作り上げた優良種をその系統に從ひ新規に作り直してみやうとするのである從來育成の實績に徵すると最初の交雜よりもその子孫に好いものが出來るのを例とし發現でも相當優良種を育成し得る自信はあるが普通にやつて行けば一つの優良品種を得るまでには五、六年乃至七、八年を要するのであるが、今は、

非常　時といふ觀念からして非常時的方法で二時も早く二七一五號に代る優良種を出して

意外に多い

一期蓬萊の移出力

尙ほ十餘萬袋ある見込

買上値は安いが

期米は買氣強し

丸糧は狂騰後一息

丸糧は期米爲と

産地棒上　げの爲め東京から神戸八回四十錢まで買つて來たが之は小口で大口は八回二十錢買現物である、十六日甚所入地には四萬六〇〇〇俵の入荷があつたが十七日は

某所入電　による處二回買上總數は前回より一俵に付三十三錢高にて一般の期待に反し

統制案　は豫期以上に苛酷なるものであるから

曙光

（161）

新居（六）

生方敏郎作

中野修二畫

二人の驚える唇が開れ舌を絡み合つてゐたことだけだ。

外で人の警がしたので、二人とも驚いて、顫れ、瞬子はだかつた膝の間を合はせて縮り返したが、瞬もその部屋へ入つて來る者はなく、跫音も遠ざかつて遠のいた。大方假寢はあの猫に驚かされたものに違ひない。

一九月十日。瞬子より來狀。昨夜私は結婚式を擧げました。私は貧しい職工の人と結婚の歌かい神の中へ入れられました。今朝さに驚さへ出ません。私はそんなこと少しも恐れません。こないだの悲しい事を、跡形となく胸の中に描いて頑みました。

それから先きは、澁江が引き手切つて捨てたものらしく、上の方に朝に五六字書くには二三字づつ四さ迄されてはあるが、その意味は全く分めないことはないが、しかし正しい意味はよく取れなかつた。

春田はそれを讀んでる間に上氣したのを知つて、ほてつく面に手を當てゝみた。

先刻春田が日記を讀みはじめた時、お前手を開いてゐた澁江が、それを讀み終つた時には、茶の間に、午前中に荷物の整理は殆ど片が付いた。春田は僅勞のことのほかは、手を出さなかつたが、澁江は一人で大方やつてのけた。澁江は瞬子を隣室にして、茶の間の古い箪笥や机を拭き、瞬子はそれを一つ一つところに整理箪笥を開ける釘を打ち付けることまでした。

大方片づいたところで、澁江は「この部屋はメメね。氣のきた配置わかしの考えたつのを見て、春子は一體もないわ。」

「あなた一切り付いたら、お茶にしませんか？もうお三時よ。」

そして、春田がお行くと、食事を持ち出し、春をいれて、何時の間にか茶卓で開つて來たらしい生活の包みを開いた。

「この部屋はメメね。氣のきた配置わかしの考えたつのを見て、春子は一體もないわ。」

田を呼びにいつた。

「あなた一切り付いたら、お茶にしませんか？もうお三時よ。」

そして、春田がお行くと、食事を持ち出し、春をいれて、何時の間にか茶卓で開つて來たらしい生活の包みを開いた。

澁江は瞬子の前に、午前中に荷物の整理は殆ど片が付いた。春田は僅勞のことのほかは、手を出さなかつたが、澁江は一人で大方やつてのけた。澁江は瞬子を隣室にして、茶の間の古い箪笥や机を拭き、瞬子はそれを一つ一つところに整理箪笥を開ける釘を打ち付けることまでした。

大方片づいたところで、澁江は「この部屋はメメね。氣のきた配置わかしの考えたつのを見て、春子は一體もないわ。」

學生、青年團、鄉軍の分列式を親閲遊ばさる

一萬餘の女子奉唱隊は玉座近くで奉迎歌合唱

【大阪十六日發電通】一路の御道筋の光榮に浴する大阪、京都、兵庫、奈良、三重、滋賀、和歌山の二府五縣の男女中等學校、高等女學校、師範學校生徒、在鄉軍人等は朝まだきより夫々一定の集合場所へ參集、整列を終へて式場による大阪練兵場に到着、正午前には玉座の御前一帶に亂然と整列して參加一萬餘の兒童は愈々と聖上陛下の御親閲を仰ぐ光榮に感激の胸を躍らせつゝ、今か今かと待ち構へる中を、正午十二時、玉座の御前に到着、陛下には侍從武官を從へられ、玉座に着御あらせられ、次いで閑院宮殿下には行在所御門、同六時半なる合圖の喇叭鳴り渡るや、先づ騎兵第四聯隊、騎兵第四聯隊、騎兵第四聯隊の順序にて、各聯隊の軍旗を先頭に、軍樂隊を前に立てゝ、堂々と分列式行進を開始、次いで步兵第三十七聯隊、同第三十八聯隊、同第三十九聯隊、同第四十聯隊、同第四十一聯隊、同第四十二聯隊、同第四十三聯隊、同第四十四聯隊、同第四十五聯隊、同第四十六聯隊、同第四十七聯隊、同第四十八聯隊、同第四十九聯隊、同第五十聯隊、同第五十一聯隊、同第五十二聯隊、同第五十三聯隊、同第五十四聯隊、同第五十五聯隊、同第五十六聯隊、同第五十七聯隊、同第五十八聯隊、同第五十九聯隊、同第六十聯隊、同第六十一聯隊、同第六十二聯隊、同第六十三聯隊、同第六十四聯隊、同第六十五聯隊、同第六十六聯隊、同第六十七聯隊、同第六十八聯隊、同第六十九聯隊、同第七十聯隊、同第七十一聯隊、同第七十二聯隊、同第七十三聯隊、同第七十四聯隊、同第七十五聯隊、同第七十六聯隊、同第七十七聯隊、同第七十八聯隊、同第七十九聯隊、同第八十聯隊、同第八十一聯隊、同第八十二聯隊、同第八十三聯隊、同第八十四聯隊、同第八十五聯隊、同第八十六聯隊、同第八十七聯隊、同第八十八聯隊、同第八十九聯隊、同第九十聯隊、同第九十一聯隊、同第九十二聯隊、同第九十三聯隊、同第九十四聯隊、同第九十五聯隊、同第九十六聯隊、同第九十七聯隊、同第九十八聯隊、同第九十九聯隊、同第一百聯隊、同第一百一聯隊、同第一百二聯隊、同第一百三聯隊、同第一百四聯隊、同第一百五聯隊、同第一百六聯隊、同第一百七聯隊、同第一百八聯隊、同第一百九聯隊、同第一百十聯隊、同第一百十一聯隊、同第一百十二聯隊、同第一百十三聯隊、同第一百十四聯隊、同第一百十五聯隊、同第一百十六聯隊、同第一百十七聯隊、同第一百十八聯隊、同第一百十九聯隊、同第一百二十聯隊、同第一百二十一聯隊、同第一百二十二聯隊、同第一百二十三聯隊、同第一百二十四聯隊、同第一百二十五聯隊、同第一百二十六聯隊、同第一百二十七聯隊、同第一百二十八聯隊、同第一百二十九聯隊、同第一百三十聯隊、同第一百三十一聯隊、同第一百三十二聯隊、同第一百三十三聯隊、同第一百三十四聯隊、同第一百三十五聯隊、同第一百三十六聯隊、同第一百三十七聯隊、同第一百三十八聯隊、同第一百三十九聯隊、同第一百四十聯隊、同第一百四十一聯隊、同第一百四十二聯隊、同第一百四十三聯隊、同第一百四十四聯隊、同第一百四十五聯隊、同第一百四十六聯隊、同第一百四十七聯隊、同第一百四十八聯隊、同第一百四十九聯隊、同第一百五十聯隊、同第一百五十一聯隊、同第一百五十二聯隊、同第一百五十三聯隊、同第一百五十四聯隊、同第一百五十五聯隊、同第一百五十六聯隊、同第一百五十七聯隊、同第一百五十八聯隊、同第一百五十九聯隊、同第一百六十聯隊、同第一百六十一聯隊、同第一百六十二聯隊、同第一百六十三聯隊、同第一百六十四聯隊、同第一百六十五聯隊、同第一百六十六聯隊、同第一百六十七聯隊、同第一百六十八聯隊、同第一百六十九聯隊、同第一百七十聯隊、同第一百七十一聯隊、同第一百七十二聯隊、同第一百七十三聯隊、同第一百七十四聯隊、同第一百七十五聯隊、同第一百七十六聯隊、同第一百七十七聯隊、同第一百七十八聯隊、同第一百七十九聯隊、同第一百八十聯隊、同第一百八十一聯隊、同第一百八十二聯隊、同第一百八十三聯隊、同第一百八十四聯隊、同第一百八十五聯隊、同第一百八十六聯隊、同第一百八十七聯隊、同第一百八十八聯隊、同第一百八十九聯隊、同第一百九十聯隊、同第一百九十一聯隊、同第一百九十二聯隊、同第一百九十三聯隊、同第一百九十四聯隊、同第一百九十五聯隊、同第一百九十六聯隊、同第一百九十七聯隊、同第一百九十八聯隊、同第一百九十九聯隊、同第二百聯隊、同第二百一聯隊、同第二百二聯隊、同第二百三聯隊、同第二百四聯隊、同第二百五聯隊、同第二百六聯隊、同第二百七聯隊、同第二百八聯隊、同第二百九聯隊、同第二百十聯隊、同第二百十一聯隊、同第二百十二聯隊、同第二百十三聯隊、同第二百十四聯隊、同第二百十五聯隊、同第二百十六聯隊、同第二百十七聯隊、同第二百十八聯隊、同第二百十九聯隊、同第二百二十聯隊、同第二百二十一聯隊、同第二百二十二聯隊、同第二百二十三聯隊、同第二百二十四聯隊、同第二百二十五聯隊、同第二百二十六聯隊、同第二百二十七聯隊、同第二百二十八聯隊、同第二百二十九聯隊、同第二百三十聯隊、同第二百三十一聯隊、同第二百三十二聯隊、同第二百三十三聯隊、同第二百三十四聯隊、同第二百三十五聯隊、同第二百三十六聯隊、同第二百三十七聯隊、同第二百三十八聯隊、同第二百三十九聯隊、同第二百四十聯隊、同第二百四十一聯隊、同第二百四十二聯隊、同第二百四十三聯隊、同第二百四十四聯隊、同第二百四十五聯隊、同第二百四十六聯隊、同第二百四十七聯隊、同第二百四十八聯隊、同第二百四十九聯隊、同第二百五十聯隊、同第二百五十一聯隊、同第二百五十二聯隊、同第二百五十三聯隊、同第二百五十四聯隊、同第二百五十五聯隊、同第二百五十六聯隊、同第二百五十七聯隊、同第二百五十八聯隊、同第二百五十九聯隊、同第二百六十聯隊、同第二百六十一聯隊、同第二百六十二聯隊、同第二百六十三聯隊、同第二百六十四聯隊、同第二百六十五聯隊、同第二百六十六聯隊、同第二百六十七聯隊、同第二百六十八聯隊、同第二百六十九聯隊、同第二百七十聯隊、同第二百七十一聯隊、同第二百七十二聯隊、同第二百七十三聯隊、同第二百七十四聯隊、同第二百七十五聯隊、同第二百七十六聯隊、同第二百七十七聯隊、同第二百七十八聯隊、同第二百七十九聯隊、同第二百八十聯隊、同第二百八十一聯隊、同第二百八十二聯隊、同第二百八十三聯隊、同第二百八十四聯隊、同第二百八十五聯隊、同第二百八十六聯隊、同第二百八十七聯隊、同第二百八十八聯隊、同第二百八十九聯隊、同第二百九十聯隊、同第二百九十一聯隊、同第二百九十二聯隊、同第二百九十三聯隊、同第二百九十四聯隊、同第二百九十五聯隊、同第二百九十六聯隊、同第二百九十七聯隊、同第二百九十八聯隊、同第二百九十九聯隊、同第三百聯隊、同第三百一聯隊、同第三百二聯隊、同第三百三聯隊、同第三百四聯隊、同第三百五聯隊、同第三百六聯隊、同第三百七聯隊、同第三百八聯隊、同第三百九聯隊、同第三百十聯隊、同第三百十一聯隊、同第三百十二聯隊、同第三百十三聯隊、同第三百十四聯隊、同第三百十五聯隊、同第三百十六聯隊、同第三百十七聯隊、同第三百十八聯隊、同第三百十九聯隊、同第三百二十聯隊、同第三百二十一聯隊、同第三百二十二聯隊、同第三百二十三聯隊、同第三百二十四聯隊、同第三百二十五聯隊、同第三百二十六聯隊、同第三百二十七聯隊、同第三百二十八聯隊、同第三百二十九聯隊、同第三百三十聯隊、同第三百三十一聯隊、同第三百三十二聯隊、同第三百三十三聯隊、同第三百三十四聯隊、同第三百三十五聯隊、同第三百三十六聯隊、同第三百三十七聯隊、同第三百三十八聯隊、同第三百三十九聯隊、同第三百四十聯隊、同第三百四十一聯隊、同第三百四十二聯隊、同第三百四十三聯隊、同第三百四十四聯隊、同第三百四十五聯隊、同第三百四十六聯隊、同第三百四十七聯隊、同第三百四十八聯隊、同第三百四十九聯隊、同第三百五十聯隊、同第三百五十一聯隊、同第三百五十二聯隊、同第三百五十三聯隊、同第三百五十四聯隊、同第三百五十五聯隊、同第三百五十六聯隊、同第三百五十七聯隊、同第三百五十八聯隊、同第三百五十九聯隊、同第三百六十聯隊、同第三百六十一聯隊、同第三百六十二聯隊、同第三百六十三聯隊、同第三百六十四聯隊、同第三百六十五聯隊、同第三百六十六聯隊、同第三百六十七聯隊、同第三百六十八聯隊、同第三百六十九聯隊、同第三百七十聯隊、同第三百七十一聯隊、同第三百七十二聯隊、同第三百七十三聯隊、同第三百七十四聯隊、同第三百七十五聯隊、同第三百七十六聯隊、同第三百七十七聯隊、同第三百七十八聯隊、同第三百七十九聯隊、同第三百八十聯隊、同第三百八十一聯隊、同第三百八十二聯隊、同第三百八十三聯隊、同第三百八十四聯隊、同第三百八十五聯隊、同第三百八十六聯隊、同第三百八十七聯隊、同第三百八十八聯隊、同第三百八十九聯隊、同第三百九十聯隊、同第三百九十一聯隊、同第三百九十二聯隊、同第三百九十三聯隊、同第三百九十四聯隊、同第三百九十五聯隊、同第三百九十六聯隊、同第三百九十七聯隊、同第三百九十八聯隊、同第三百九十九聯隊、同第四百聯隊、同第四百一聯隊、同第四百二聯隊、同第四百三聯隊、同第四百四聯隊、同第四百五聯隊、同第四百六聯隊、同第四百七聯隊、同第四百八聯隊、同第四百九聯隊、同第四百十聯隊、同第四百十一聯隊、同第四百十二聯隊、同第四百十三聯隊、同第四百十四聯隊、同第四百十五聯隊、同第四百十六聯隊、同第四百十七聯隊、同第四百十八聯隊、同第四百十九聯隊、同第四百二十聯隊、同第四百二十一聯隊、同第四百二十二聯隊、同第四百二十三聯隊、同第四百二十四聯隊、同第四百二十五聯隊、同第四百二十六聯隊、同第四百二十七聯隊、同第四百二十八聯隊、同第四百二十九聯隊、同第四百三十聯隊、同第四百三十一聯隊、同第四百三十二聯隊、同第四百三十三聯隊、同第四百三十四聯隊、同第四百三十五聯隊、同第四百三十六聯隊、同第四百三十七聯隊、同第四百三十八聯隊、同第四百三十九聯隊、同第四百四十聯隊、同第四百四十一聯隊、同第四百四十二聯隊、同第四百四十三聯隊、同第四百四十四聯隊、同第四百四十五聯隊、同第四百四十六聯隊、同第四百四十七聯隊、同第四百四十八聯隊、同第四百四十九聯隊、同第四百五十聯隊、同第四百五十一聯隊、同第四百五十二聯隊、同第四百五十三聯隊、同第四百五十四聯隊、同第四百五十五聯隊、同第四百五十六聯隊、同第四百五十七聯隊、同第四百五十八聯隊、同第四百五十九聯隊、同第四百六十聯隊、同第四百六十一聯隊、同第四百六十二聯隊、同第四百六十三聯隊、同第四百六十四聯隊、同第四百六十五聯隊、同第四百六十六聯隊、同第四百六十七聯隊、同第四百六十八聯隊、同第四百六十九聯隊、同第四百七十聯隊、同第四百七十一聯隊、同第四百七十二聯隊、同第四百七十三聯隊、同第四百七十四聯隊、同第四百七十五聯隊、同第四百七十六聯隊、同第四百七十七聯隊、同第四百七十八聯隊、同第四百七十九聯隊、同第四百八十聯隊、同第四百八十一聯隊、同第四百八十二聯隊、同第四百八十三聯隊、同第四百八十四聯隊、同第四百八十五聯隊、同第四百八十六聯隊、同第四百八十七聯隊、同第四百八十八聯隊、同第四百八十九聯隊、同第四百九十聯隊、同第四百九十一聯隊、同第四百九十二聯隊、同第四百九十三聯隊、同第四百九十四聯隊、同第四百九十五聯隊、同第四百九十六聯隊、同第四百九十七聯隊、同第四百九十八聯隊、同第四百九十九聯隊、同第五百聯隊、同第五百一聯隊、同第五百二聯隊、同第五百三聯隊、同第五百四聯隊、同第五百五聯隊、同第五百六聯隊、同第五百七聯隊、同第五百八聯隊、同第五百九聯隊、同第五百十聯隊、同第五百十一聯隊、同第五百十二聯隊、同第五百十三聯隊、同第五百十四聯隊、同第五百十五聯隊、同第五百十六聯隊、同第五百十七聯隊、同第五百十八聯隊、同第五百十九聯隊、同第五百二十聯隊、同第五百二十一聯隊、同第五百二十二聯隊、同第五百二十三聯隊、同第五百二十四聯隊、同第五百二十五聯隊、同第五百二十六聯隊、同第五百二十七聯隊、同第五百二十八聯隊、同第五百二十九聯隊、同第五百三十聯隊、同第五百三十一聯隊、同第五百三十二聯隊、同第五百三十三聯隊、同第五百三十四聯隊、同第五百三十五聯隊、同第五百三十六聯隊、同第五百三十七聯隊、同第五百三十八聯隊、同第五百三十九聯隊、同第五百四十聯隊、同第五百四十一聯隊、同第五百四十二聯隊、同第五百四十三聯隊、同第五百四十四聯隊、同第五百四十五聯隊、同第五百四十六聯隊、同第五百四十七聯隊、同第五百四十八聯隊、同第五百四十九聯隊、同第五百五十聯隊、同第五百五十一聯隊、同第五百五十二聯隊、同第五百五十三聯隊、同第五百五十四聯隊、同第五百五十五聯隊、同第五百五十六聯隊、同第五百五十七聯隊、同第五百五十八聯隊、同第五百五十九聯隊、同第五百六十聯隊、同第五百六十一聯隊、同第五百六十二聯隊、同第五百六十三聯隊、同第五百六十四聯隊、同第五百六十五聯隊、同第五百六十六聯隊、同第五百六十七聯隊、同第五百六十八聯隊、同第五百六十九聯隊、同第五百七十聯隊、同第五百七十一聯隊、同第五百七十二聯隊、同第五百七十三聯隊、同第五百七十四聯隊、同第五百七十五聯隊、同第五百七十六聯隊、同第五百七十七聯隊、同第五百七十八聯隊、同第五百七十九聯隊、同第五百八十聯隊、同第五百八十一聯隊、同第五百八十二聯隊、同第五百八十三聯隊、同第五百八十四聯隊、同第五百八十五聯隊、同第五百八十六聯隊、同第五百八十七聯隊、同第五百八十八聯隊、同第五百八十九聯隊、同第五百九十聯隊、同第五百九十一聯隊、同第五百九十二聯隊、同第五百九十三聯隊、同第五百九十四聯隊、同第五百九十五聯隊、同第五百九十六聯隊、同第五百九十七聯隊、同第五百九十八聯隊、同第五百九十九聯隊、同第六百聯隊、同第六百一聯隊、同第六百二聯隊、同第六百三聯隊、同第六百四聯隊、同第六百五聯隊、同第六百六聯隊、同第六百七聯隊、同第六百八聯隊、同第六百九聯隊、同第六百十聯隊、同第六百十一聯隊、同第六百十二聯隊、同第六百十三聯隊、同第六百十四聯隊、同第六百十五聯隊、同第六百十六聯隊、同第六百十七聯隊、同第六百十八聯隊、同第六百十九聯隊、同第六百二十聯隊、同第六百二十一聯隊、同第六百二十二聯隊、同第六百二十三聯隊、同第六百二十四聯隊、同第六百二十五聯隊、同第六百二十六聯隊、同第六百二十七聯隊、同第六百二十八聯隊、同第六百二十九聯隊、同第六百三十聯隊、同第六百三十一聯隊、同第六百三十二聯隊、同第六百三十三聯隊、同第六百三十四聯隊、同第六百三十五聯隊、同第六百三十六聯隊、同第六百三十七聯隊、同第六百三十八聯隊、同第六百三十九聯隊、同第六百四十聯隊、同第六百四十一聯隊、同第六百四十二聯隊、同第六百四十三聯隊、同第六百四十四聯隊、同第六百四十五聯隊、同第六百四十六聯隊、同第六百四十七聯隊、同第六百四十八聯隊、同第六百四十九聯隊、同第六百五十聯隊、同第六百五十一聯隊、同第六百五十二聯隊、同第六百五十三聯隊、同第六百五十四聯隊、同第六百五十五聯隊、同第六百五十六聯隊、同第六百五十七聯隊、同第六百五十八聯隊、同第六百五十九聯隊、同第六百六十聯隊、同第六百六十一聯隊、同第六百六十二聯隊、同第六百六十三聯隊、同第六百六十四聯隊、同第六百六十五聯隊、同第六百六十六聯隊、同第六百六十七聯隊、同第六百六十八聯隊、同第六百六十九聯隊、同第六百七十聯隊、同第六百七十一聯隊、同第六百七十二聯隊、同第六百七十三聯隊、同第六百七十四聯隊、同第六百七十五聯隊、同第六百七十六聯隊、同第六百七十七聯隊、同第六百七十八聯隊、同第六百七十九聯隊、同第六百八十聯隊、同第六百八十一聯隊、同第六百八十二聯隊、同第六百八十三聯隊、同第六百八十四聯隊、同第六百八十五聯隊、同第六百八十六聯隊、同第六百八十七聯隊、同第六百八十八聯隊、同第六百八十九聯隊、同第六百九十聯隊、同第六百九十一聯隊、同第六百九十二聯隊、同第六百九十三聯隊、同第六百九十四聯隊、同第六百九十五聯隊、同第六百九十六聯隊、同第六百九十七聯隊、同第六百九十八聯隊、同第六百九十九聯隊、同第七百聯隊、同第七百一聯隊、同第七百二聯隊、同第七百三聯隊、同第七百四聯隊、同第七百五聯隊、同第七百六聯隊、同第七百七聯隊、同第七百八聯隊、同第七百九聯隊、同第七百十聯隊、同第七百十一聯隊、同第七百十二聯隊、同第七百十三聯隊、同第七百十四聯隊、同第七百十五聯隊、同第七百十六聯隊、同第七百十七聯隊、同第七百十八聯隊、同第七百十九聯隊、同第七百二十聯隊、同第七百二十一聯隊、同第七百二十二聯隊、同第七百二十三聯隊、同第七百二十四聯隊、同第七百二十五聯隊、同第七百二十六聯隊、同第七百二十七聯隊、同第七百二十八聯隊、同第七百二十九聯隊、同第七百三十聯隊、同第七百三十一聯隊、同第七百三十二聯隊、同第七百三十三聯隊、同第七百三十四聯隊、同第七百三十五聯隊、同第七百三十六聯隊、同第七百三十七聯隊、同第七百三十八聯隊、同第七百三十九聯隊、同第七百四十聯隊、同第七百四十一聯隊、同第七百四十二聯隊、同第七百四十三聯隊、同第七百四十四聯隊、同第七百四十五聯隊、同第七百四十六聯隊、同第七百四十七聯隊、同第七百四十八聯隊、同第七百四十九聯隊、同第七百五十聯隊、同第七百五十一聯隊、同第七百五十二聯隊、同第七百五十三聯隊、同第七百五十四聯隊、同第七百五十五聯隊、同第七百五十六聯隊、同第七百五十七聯隊、同第七百五十八聯隊、同第七百五十九聯隊、同第七百六十聯隊、同第七百六十一聯隊、同第七百六十二聯隊、同第七百六十三聯隊、同第七百六十四聯隊、同第七百六十五聯隊、同第七百六十六聯隊、同第七百六十七聯隊、同第七百六十八聯隊、同第七百六十九聯隊、同第七百七十聯隊、同第七百七十一聯隊、同第七百七十二聯隊、同第七百七十三聯隊、同第七百七十四聯隊、同第七百七十五聯隊、同第七百七十六聯隊、同第七百七十七聯隊、同第七百七十八聯隊、同第七百七十九聯隊、同第七百八十聯隊、同第七百八十一聯隊、同第七百八十二聯隊、同第七百八十三聯隊、同第七百八十四聯隊、同第七百八十五聯隊、同第七百八十六聯隊、同第七百八十七聯隊、同第七百八十八聯隊、同第七百八十九聯隊、同第七百九十聯隊、同第七百九十一聯隊、同第七百九十二聯隊、同第七百九十三聯隊、同第七百九十四聯隊、同第七百九十五聯隊、同第七百九十六聯隊、同第七百九十七聯隊、同第七百九十八聯隊、同第七百九十九聯隊、同第八百聯隊、同第八百一聯隊、同第八百二聯隊、同第八百三聯隊、同第八百四聯隊、同第八百五聯隊、同第八百六聯隊、同第八百七聯隊、同第八百八聯隊、同第八百九聯隊、同第八百十聯隊、同第八百十一聯隊、同第八百十二聯隊、同第八百十三聯隊、同第八百十四聯隊、同第八百十五聯隊、同第八百十六聯隊、同第八百十七聯隊、同第八百十八聯隊、同第八百十九聯隊、同第八百二十聯隊、同第八百二十一聯隊、同第八百二十二聯隊、同第八百二十三聯隊、同第八百二十四聯隊、同第八百二十五聯隊、同第八百二十六聯隊、同第八百二十七聯隊、同第八百二十八聯隊、同第八百二十九聯隊、同第八百三十聯隊、同第八百三十一聯隊、同第八百三十二聯隊、同第八百三十三聯隊、同第八百三十四聯隊、同第八百三十五聯隊、同第八百三十六聯隊、同第八百三十七聯隊、同第八百三十八聯隊、同第八百三十九聯隊、同第八百四十聯隊、同第八百四十一聯隊、同第八百四十二聯隊、同第八百四十三聯隊、同第八百四十四聯隊、同第八百四十五聯隊、同第八百四十六聯隊、同第八百四十七聯隊、同第八百四十八聯隊、同第八百四十九聯隊、同第八百五十聯隊、同第八百五十一聯隊、同第八百五十二聯隊、同第八百五十三聯隊、同第八百五十四聯隊、同第八百五十五聯隊、同第八百五十六聯隊、同第八百五十七聯隊、同第八百五十八聯隊、同第八百五十九聯隊、同第八百六十聯隊、同第八百六十一聯隊、同第八百六十二聯隊、同第八百六十三聯隊、同第八百六十四聯隊、同第八百六十五聯隊、同第八百六十六聯隊、同第八百六十七聯隊、同第八百六十八聯隊、同第八百六十九聯隊、同第八百七十聯隊、同第八百七十一聯隊、同第八百七十二聯隊、同第八百七十三聯隊、同第八百七十四聯隊、同第八百七十五聯隊、同第八百七十六聯隊、同第八百七十七聯隊、同第八百七十八聯隊、同第八百七十九聯隊、同第八百八十聯隊、同第八百八十一聯隊、同第八百八十二聯隊、同第八百八十三聯隊、同第八百八十四聯隊、同第八百八十五聯隊、同第八百八十六聯隊、同第八百八十七聯隊、同第八百八十八聯隊、同第八百八十九聯隊、同第八百九十聯隊、同第八百九十一聯隊、同第八百九十二聯隊、同第八百九十三聯隊、同第八百九十四聯隊、同第八百九十五聯隊、同第八百九十六聯隊、同第八百九十七聯隊、同第八百九十八聯隊、同第八百九十九聯隊、同第九百聯隊、同第九百一聯隊、同第九百二聯隊、同第九百三聯隊、同第九百四聯隊、同第九百五聯隊、同第九百六聯隊、同第九百七聯隊、同第九百八聯隊、同第九百九聯隊、同第九百十聯隊、同第九百十一聯隊、同第九百十二聯隊、同第九百十三聯隊、同第九百十四聯隊、同第九百十五聯隊、同第九百十六聯隊、同第九百十七聯隊、同第九百十八聯隊、同第九百十九聯隊、同第九百二十聯隊、同第九百二十一聯隊、同第九百二十二聯隊、同第九百二十三聯隊、同第九百二十四聯隊、同第九百二十五聯隊、同第九百二十六聯隊、同第九百二十七聯隊、同第九百二十八聯隊、同第九百二十九聯隊、同第九百三十聯隊、同第九百三十一聯隊、同第九百三十二聯隊、同第九百三十三聯隊、同第九百三十四聯隊、同第九百三十五聯隊、同第九百三十六聯隊、同第九百三十七聯隊、同第九百三十八聯隊、同第九百三十九聯隊、同第九百四十聯隊、同第九百四十一聯隊、同第九百四十二聯隊、同第九百四十三聯隊、同第九百四十四聯隊、同第九百四十五聯隊、同第九百四十六聯隊、同第九百四十七聯隊、同第九百四十八聯隊、同第九百四十九聯隊、同第九百五十聯隊、同第九百五十一聯隊、同第九百五十二聯隊、同第九百五十三聯隊、同第九百五十四聯隊、同第九百五十五聯隊、同第九百五十六聯隊、同第九百五十七聯隊、同第九百五十八聯隊、同第九百五十九聯隊、同第九百六十聯隊、同第九百六十一聯隊、同第九百六十二聯隊、同第九百六十三聯隊、同第九百六十四聯隊、同第九百六十五聯隊、同第九百六十六聯隊、同第九百六十七聯隊、同第九百六十八聯隊、同第九百六十九聯隊、同第九百七十聯隊、同第九百七十一聯隊、同第九百七十二聯隊、同第九百七十三聯隊、同第九百七十四聯隊、同第九百七十五聯隊、同第九百七十六聯隊、同第九百七十七聯隊、同第九百七十八聯隊、同第九百七十九聯隊、同第九百八十聯隊、同第九百八十一聯隊、同第九百八十二聯隊、同第九百八十三聯隊、同第九百八十四聯隊、同第九百八十五聯隊、同第九百八十六聯隊、同第九百八十七聯隊、同第九百八十八聯隊、同第九百八十九聯隊、同第九百九十聯隊、同第九百九十一聯隊、同第九百九十二聯隊、同第九百九十三聯隊、同第九百九十四聯隊、同第九百九十五聯隊、同第九百九十六聯隊、同第九百九十七聯隊、同第九百九十八聯隊、同第九百九十九聯隊、同第一千聯隊、同第一千一聯隊、同第一千二聯隊、同第一千三聯隊、同第一千四聯隊、同第一千五聯隊、同第一千六聯隊、同第一千七聯隊、同第一千八聯隊、同第一千九聯隊、同第一千十聯隊、同第一千十一聯隊、同第一千十二聯隊、同第一千十三聯隊、同第一千十四聯隊、同第一千十五聯隊、同第一千十六聯隊、同第一千十七聯隊、同第一千十八聯隊、同第一千十九聯隊、同第一千二十聯隊、同第一千二十一聯隊、同第一千二十二聯隊、同第一千二十三聯隊、同第一千二十四聯隊、同第一千二十五聯隊、同第一千二十六聯隊、同第一千二十七聯隊、同第一千二十八聯隊、同第一千二十九聯隊、同第一千三十聯隊、同第一千三十一聯隊、同第一千三十二聯隊、同第一千三十三聯隊、同第一千三十四聯隊、同第一千三十五聯隊、同第一千三十六聯隊、同第一千三十七聯隊、同第一千三十八聯隊、同第一千三十九聯隊、同第一千四十聯隊、同第一千四十一聯隊、同第一千四十二聯隊、同第一千四十三聯隊、同第一千四十四聯隊、同第一千四十五聯隊、同第一千四十六聯隊、同第一千四十七聯隊、同第一千四十八聯隊、同第一千四十九聯隊、同第一千五十聯隊、同第一千五十一聯隊、同第一千五十二聯隊、同第一千五十三聯隊、同第一千五十四聯隊、同第一千五十五聯隊、同第一千五十六聯隊、同第一千五十七聯隊、同第一千五十八聯隊、同第一千五十九聯隊、同第一千六十聯隊、同第一千六十一聯隊、同第一千六十二聯隊、同第一千六十三聯隊、同第一千六十四聯隊、同第一千六十五聯隊、同第一千六十六聯隊、同第一千六十七聯隊、同第一千六十八聯隊、同第一千六十九聯隊、同第一千七十聯隊、同第一千七十一聯隊、同第一千七十二聯隊、同第一千七十三聯隊、同第一千七十四聯隊、同第一千七十五聯隊、同第一千七十六聯隊、同第一千七十七聯隊、同第一千七十八聯隊、同第一千七十九聯隊、同第一千八十聯隊、同第一千八十一聯隊、同第一千八十二聯隊、同第一千八十三聯隊、同第一千八十四聯隊、同第一千八十五聯隊、同第一千八十六聯隊、同第一千八十七聯隊、同第一千八十八聯隊、同第一千八十九聯隊、同第一千九十聯隊、同第一千九十一聯隊、同第一千九十二聯隊、同第一千九十三聯隊、同第一千九十四聯隊、同第一千九十五聯隊、同第一千九十六聯隊、同第一千九十七聯隊、同第一千九十八聯隊、同第一千九十九聯隊、同第一千一百聯隊、同第一千一百一聯隊、同第一千一百二聯隊、同第一千一百三聯隊、同第一千一百四聯隊、同第一千一百五聯隊、同第一千一百六聯隊、同第一千一百七聯隊、同第一千一百八聯隊、同第一千一百九聯隊、同第一千一百十聯隊、同第一千一百十一聯隊、同第一千一百十二聯隊、同第一千一百十三聯隊、同第一千一百十四聯隊、同第一千一百十五聯隊、同第一千一百十六聯隊、同第一千一百十七聯隊、同第一千一百十八聯隊、同第一千一百十九聯隊、同第一千一百二十聯隊、同第一千一百二十一聯隊、同第一千一百二十二聯隊、同第一千一百二十三聯隊、同第一千一百二十四聯隊、同第一千一百二十五聯隊、同第一千一百二十六聯隊、同第一千一百二十七聯隊、同第一千一百二十八聯隊、同第一千一百二十九聯隊、同第一千一百三十聯隊、同第一千一百三十一聯隊、同第一千一百三十二聯隊、同第一千一百三十三聯隊、同第一千一百三十四聯隊、同第一千一百三十五聯隊、同第一千一百三十六聯隊、同第一千一百三十七聯隊、同第一千一百三十八聯隊、同第一千一百三十九聯隊、同第一千一百四十聯隊、同第一千一百四十一聯隊、同第一千一百四十二聯隊、同第一千一百四十三聯隊、同第一千一百四十四聯隊、同第一千一百四十五聯隊、同第一千一百四十六聯隊、同第一千一百四十七聯隊、同第一千一百四十八聯隊、同第一千一百四十九聯隊、同第一千一百五十聯隊、同第一千一百五十一聯隊、同第一千一百五十二聯隊、同第一千一百五十三聯隊、同第一千一百五十四聯隊、同第一千一百五十五聯隊、同第一千一百五十六聯隊、同第一千一百五十七聯隊、同第一千一百五十八聯隊、同第一千一百五十九聯隊、同第一千一百六十聯隊、同第一千一百六十一聯隊、同第一千一百六十二聯隊、同第一千一百六十三聯隊、同第一千一百六十四聯隊、同第一千一百六十五聯隊、同第一千一百六十六聯隊、同第一千一百六十七聯隊、同第一千一百六十八聯隊、同第一千一百六十九聯隊、同第一千一百七十聯隊、同第一千一百七十一聯隊、同第一千一百七十二聯隊、同第一千一百七十三聯隊、同第一千一百七十四聯隊、同第一千一百七十五聯隊、同第一千一百七十六聯隊、同第一千一百七十七聯隊、同第一千一百七十八聯隊、同第一千一百七十九聯隊、同第一千一百八十聯隊、同第一千一百八十一聯隊、同第一千一百八十二聯隊、同第一千一百八十三聯隊、同第一千一百八十四聯隊、同第一千一百八十五聯隊、同第一千一百八十六聯隊、同第一千一百八十七聯隊、同第一千一百八十八聯隊、同第一千一百八十九聯隊、同第一千一百九十聯隊、同第一千一百九十一聯隊、同第一千一百九十二聯隊、同第一千一百九十三聯隊、同第一千一百九十四聯隊、同第一千一百九十五聯隊、同第一千一百九十六聯隊、同第一千一百九十七聯隊、同第一千一百九十八聯隊、同第一千一百九十九聯隊、同第一千二百聯隊、同第一千二百一聯隊、同第一千二百二聯隊、同第一千二百三聯隊、同第一千二百四聯隊、同第一千二百五聯隊、同第一千二百六聯隊、同第一千二百七聯隊、同第一千二百八聯隊、同第一千二百九聯隊、同第一千二百十聯隊、同第一千二百十一聯隊、同第一千二百十二聯隊、同第一千二百十三聯隊、同第一千二百十四聯隊、同第一千二百十五聯隊、同第一千二百十六聯隊、同第一千二百十七聯隊、同第一千二百十八聯隊、同第一千二百十九聯隊、同第一千二百二十聯隊、同第一千二百二十一聯隊、同第一千二百二十二聯隊、同第一千二百二十三聯隊、同第一千二百二十四聯隊、同第一千二百二十五聯隊、同第一千二百二十六聯隊、同第一千二百二十七聯隊、同第一千二百二十八聯隊、同第一千二百二十九聯隊、同第一千二百三十聯隊、同第一千二百三十一聯隊、同第一千二百三十二聯隊、同第一千二百三十三聯隊、同第一千二百三十四聯隊、同第一千二百三十五聯隊、同第一千二百三十六聯隊、同第一千二百三十七聯隊、同第一千二百三十八聯隊、同第一千二百三十九聯隊、同第一千二百四十聯隊、同第一千二百四十一聯隊、同第一千二百四十二聯隊、同第一千二百四十三聯隊、同第一千二百四十四聯隊、同第一千二百四十五聯隊、同第一千二百四十六聯隊、同第一千二百四十七聯隊、同第一千二百四十八聯隊、同第一千二百四十九聯隊、同第一千二百五十聯隊、同第一千二百五十一聯隊、同第一千二百五十二聯隊、同第一千二百五十三聯隊、同第一千二百五十四聯隊、同第一千二百五十五聯隊、同第一千二百五十六聯隊、同第一千二百五十七聯隊、同第一千二百五十八聯隊、同第一千二百五十九聯隊、同第一千二百六十聯隊、同第一千二百六十一聯隊、同第一千二百六十二聯隊、同第一千二百六十三聯隊、同第一千二百六十四聯隊、同第一千二百六十五聯隊、同第一千二百六十六聯隊、同第一千二百六十七聯隊、同第一千二百六十八聯隊、同第一千二百六十九聯隊、同第一千二百七十聯隊、同第一千二百七十一聯隊、同第一千二百七十二聯隊、同第一千二百七十三聯隊、同第一千二百七十四聯隊、同第一千二百七十五聯隊、同第一千二百七十六聯隊、同第一千二百七十七聯隊、同第一千二百七十八聯隊、同第一千二百七十九聯隊、同第一千二百八十聯隊、同第一千二百八十一聯隊、同第一千二百八十二聯隊、同第一千二百八十三聯隊、同第一千二百八十四聯隊、同第一千二百八十五聯隊、同第一千二百八十六聯隊、同第一千二百八十七聯隊、同第一千二百八十八聯隊、同第一千二百八十九聯隊、同第一千二百九十聯隊、同第一千二百九十一聯隊、同第一千二百九十二聯隊、同第一千二百九十三聯隊、同第一千二百九十四聯隊、同第一千二百九十五聯隊、同第一千二百九十六聯隊、同第一千二百九十七聯隊、同第一千二百九十八聯隊、同第一千二百九十九聯隊、同第一千三百聯隊、同第一千三百一聯隊、同第一千三百二聯隊、同第一千三百三聯隊、同第一千三百四聯隊、同第一千三百五聯隊、同第一千三百六聯隊、同第一千三百七聯隊、同第一千三百八聯隊、同第一千三百九聯隊、同第一千三百十聯隊、同第一千三百十一聯隊、同第一千三百十二聯隊、同第一千三百十三聯隊、同第一千三百十四聯隊、同第一千三百十五聯隊、同第一千三百十六聯隊、同第一千三百十七聯隊、同第一千三百十八聯隊、同第一千三百十九聯隊、同第一千三百二十聯隊、同第一千三百二十一聯隊、同第一千三百二十二聯隊、同第一千三百二十三聯隊、同第一千三百二十四聯隊、同第一千三百二十五聯隊、同第一千三百二十六聯隊、同第一千三百二十七聯隊、同第一千三百二十八聯隊、同第一千三百二十九聯隊、同第一千三百三十聯隊、同第一千三百三十一聯隊、同第一千三百三十二聯隊、同第一千三百三十三聯隊、同第一千三百三十四聯隊、同第一千三百三十五聯隊、同第一千三百三十六聯隊、同第一千三百三十七聯隊、同第一千三百三十八聯隊、同第一千三百三十九聯隊、同第一千三百四十聯隊、同

漢文臺灣日日新報

亞細亞同盟及調查會
對東洋諸國公使領事
面交承認促進勸告書

十六日東京電。亞細亞民族會議結成及同主義依亞細亞精神世界宣布目的頭山滿翁、一條實孝公、渡邊千冬子、九山鎗吉氏等為發動之亞細亞同盟、及興亞經濟調查會、以亞細亞民族會議之結成、及宣布亞細亞精神於世界為目的、第一著手事業、決起東亞獨立諸國之滿洲國承認促進勸告書。日本文求本庄中將、英文求外務省白鳥情報長校閱。近已完成。其實行方法。十五日林、杉田兩理事。對在京邏羅。波斯。阿牙尼斯丹。土耳其。其他亞細亞諸國公使領事。面交說勸告書。

欲適合最近事態
我意見書若干訂正
請訓於我政府

十五日巴里電。聯盟帝國事務局。受理吉田駐土大使意見書正文。局員總出。國崎吉澤兩書記官應援。十五日午前九時。至午後六時對照。檢討結果。須若干修正。以應最近事態。請訓於本省。

在帝國聯盟事務局
照意見書研究

十五日巴里電。吉田駐土大使。今朝六時五分著巴里。將東京携來之政府意見書。面交國崎一等書記官。國崎書記官等。在帝國聯盟事務局。對本國政府意見書。開始研究云。

暴風被害
溺死廿二名
廿九名不明

十六日靜岡電。十四日夜來暴風雨。避難於田方郡對島村之日本郵船々名不明貨物船一隻沈沒。乘組員四十三名。三十七名行踪不明。已發見死體三。六名在御死。漂流中遇救。

土浦町被害
家屋破壞
九百三十戶

十六日土浦電。茨城縣暴風雨被害甚大。土浦町地方。家屋倒潰五百五十。半潰三百八十。浸水三千五百。死者四名。

東京滙水
又再低落

十六日　東京電。滙水市場因上海低落。十六日紐育英日。與去八日新康值接近。三十八仙。上海日英滙水昨日引二十弗三十八仙。午後寄付落二十五仙。對英二十弗八分三賣。八分五乃至十六分九賣。與八日新康值同。其後開取。大勢低廉。旁旁上海今朝寄付依然急落。落調不爲止。十一時過。對英二十弗四分一賣。二分一買。又出新康值。今無强氣材料。前途依然險惡。一方對英一志二片八分五賣。十六分十一買。亦現出新低價。

神戶滙水
落至新康值
廿弗四分一

十六日神戶電。十六日滙水市場。因今朝入電之美日滙水續落三十五仙。稱二十弗四十仙。人氣再軟。

長崎無線處女通信
臺灣滿洲海線必廢

十六日長崎電。長崎無線電信局（送信所滿洲來都愛野。受信所北高來郡諫早）。今春來工事中。近者竣成。發受信好成績。十六日早朝。愛野受信局。自三基二百尺之大鐵塔。飛電波開始處女送信。諫早受信局。亦開始同樣受信。機械活動。同局開局時。大瀨崎無電局。遂同局併合而廢止。同局爲海岸無電局。有東洋一之稱。一時盛受多數通信。滿洲。臺灣因勿論。即遠至歐洲方面。亦得交信。初代局長李澤氏日。豫算關係。最初欲辦理船舶無電。然置於臺灣。滿洲方面海底線常不良。同海底線早晚必廢止。本局取而代之。對西日本植民地之通信。全部可辦理。如是則依電線故障之遲延等定一掃。一般得多大便益。同方面故障時。命令一下。即可應其急也。

圓糯蓬萊暴騰
追證據金立會中止
後場再開一齊激落

去十五日來期米昂米。一二十六錢。正市場外。人氣大軟。圓糯已破八圓。即東方面。圓糯已買入五圓九十四錢。場外買派轉賣。因而稍軟。十六朝期米糙米。大阪先限。自二十三圓十七錢。起至四十九錢。圓糯十二月十五日限。昨迄至七圓九十四錢。場外買派轉賣。因而稍軟。十六朝期米糙米。大阪先限。自二十三圓十七錢。起至四十九錢。圓糯十二月十五日限起至八圓四十錢。正米市場欲對實派。証袋追證。據金五十錢。因而立會中止。午後一時半。期米來至四錢一錢六錢。先限二十三圓四十五錢。師今低落。四錢。

國際通運移米輸送
計畫獨占辦理
以保留金撤廢條件

木場到處散在之土壇間業者。以基隆爲移出港之米穀。在華均收量。每甲十八石以上。故指導當爲米作者。注目于蓬萊米之耕作者。即收量以百二十萬石爲四萬五千甲。而收量以百二十萬石爲四萬五千甲。九年六萬甲。明八年度加一萬五千甲。為四萬五千甲。九年六萬甲。而收量以百二十萬石爲標準。因而今州下米作。于兩三年中。蓬萊米適于蓬萊米耕爲也。然現以上。故指導當爲米作者。注目于蓬萊米之耕作資金融通損失補償所關。最後之安綱。協議結果。日步總定二錢。以此資出代金之一成爲保留金。保留于移出商之手。且于移出米商。殘留若干。以獨占的辦理之基隆港移出米。欲由自己一家。全部辦理。現正對各大移出商商榷中。據聞計畫內容。以此資出代金之一成爲保留金。保留于移出商之手。且于移出米商。殘留若干。以獨占的辦理之基隆港移出米。欲由自己一家。全部辦理。現正對各大移出商商榷中。據聞計畫內容。

金塊密輸出案
非課以懲役刑
未得防遏犯罪
檢察官辛辣論告

基隆州下金塊密輸出案。大正町賴水塗。懲役八月。日新町倪森銓。懲役十月。榮地町吳炳煌同四月。有明町倪木是。同六月。太華地方法院判事單獨開庭。山瀨法官。入事席審理。十六日午前十時。更審同法廷。審理終了。被告二十四名。金部出廷。武井。樹見。蘭。吉江。古屋。知念。松木。長尾。安保。李十掃護人出廷之下。入中村檢察官之論告。

本件犯行。背反國家財政策。專以私益爲目的。且又組織結社。情狀頗重。而昭和六年十二月府令第六十七號規定之法定刑中。欲科以最極刑者。從而若非科以懲役刑。以剝金刑未得防遏犯罪。然後求刑如左。

高雄署破獲阿片案
發見隱匿宅中五百餘罐
傳與碇泊中某船員授受

高雄警察署。周黃兩刑事之。並帶莊胡。並其長男莊文華。年二十五。到高雄署。開始取調。風聞目下有泊碇高雄港中之支那船某二十二日。對今岸密輸入前。內有某。

臺南蓬萊米躍進
每甲十八石記錄
再兩三年合見全盛

臺南州下之耕作蓬萊種。昨年一百二十萬石。增收率。逐以南部地方。爲不一千圓云。

五名救起
二名踪跡不明

基隆郡瑞芳庄深澳人。林則定來二十四日。於草溪瀧脈和合。施行檢查云。

青年之夕
在樺山小學校

十六日。臺北市。乃于同日午後六時半。在樺山小學校講堂。開青年之夕。青年團主催。

軍事映畫

帝國々防思想映畫傳會。以長崎鄉人會得援助。

永定怪力惡童駭聞
生啖年纔二歲幼孩
害得其母飲魚藤汁自殺
後載往汕頭尙窮於處置

永定縣上赤坑地方。有農人張健者。娶上忠坑胡氏爲妻。夫在田間工作。胡出發歸。忧獰之情甚露。張行年三十。始生一子。滿愛殊甚。命名曰義銓。性情兇暴。有過人勇力。嗜好如猿。幼年時與鄰中孩童在田野中嬉戲。無一肯隨紛役其父母。每日在外鄉逃事。現年纔二歲。九月十一日。父母下田。往田中工作。同屋人亦多外出。屋中有年稚二歲之一子。然處置。張右衷兒甘泡者。

澎湖颱風三見

去十一日夕。天氣陰晴。風雨交加。午後漸烈。翌日未停。暴風雨。近來鮮見。加以潮水高漲。海水倒灌。全島陸地。悉成澤國。人民驚惶。無所措手。午後漸烈。翌日未停。暴風雨。近來鮮見。加以潮水高漲。海水倒灌。全島陸地。悉成澤國。人民驚惶。無所措手。

磯崎鎭長
被控橫領

嘉義郡竹崎庄樟腦工人陳備。年三十九。去十四日午前七時頃。在其宅前附近風梨園縊死。聞死因爲和某有疑。被嘉義郡警察署拘去訊問。因病氣釋放治療後。悲觀自殺云。

深澳漁船顚覆

有金品損失。警山新高能高各署。既經施行。附反罪。自十五日起。至十九。大雨。臺中內。自十七日午前十時。陳開受。同二月。廣東九買辦陳如昌。同六月。商四名。金部出廷。武井。同二月。太平。樹見。蘭。吉江。同五月。基隆。古屋。知念。松木。長尾。安保。同十月。日新。蓬萊。同五月。

金融概況

北港郡下。北港。頂營。元。口。湖。四湖各信用組合。去十月末日現在。組合員數五千七百四名。其金額。如下。貸付金六三三。六四四圓。比較前月減四三。三九五圓。貯金四六。二六七圓。比較前月減四。五。六〇四圓。

設模範庄

北港郡當局爲副業一般指庄民之自治精神。並獎勵起。蔗業教育。家訓。副生等之改良振興。以整飭官吏出勤。定左記十六庄。模範部落。

情郎被妓女
告訴橫領

許氏梧年二十二。藝花錢於南投四六七番地。同花樓。目前對南投警察課。正由當局取調中。查其內容。乃許氏前會在嘉義。與彼時與何結不解緣。男貧女愛。遂約嫁娶。蓋何假木材。年二十二。外五名。去十五日午後九時半。發見其妻。在自宅中。與頭前七時頃。在其宅前附近風梨園縊死。聞死因爲和某有疑。被嘉義郡警察署拘去訊問。因病氣釋放治療後。悲觀自殺云。

磯崎鎭長
被控橫領

嘉義郡竹崎庄樟腦工人陳備。年三十九。去十四日午前七時頃。在其宅前附近風梨園縊死。聞死因爲和某有疑。被嘉義郡警察署拘去訊問。因病氣釋放治療後。悲觀自殺云。

姦夫姦婦同衾中
受本夫發見斬傷

嘉義郡竹崎庄樟腦工人陳備。年三十九。去十四日午前七時頃。在其宅前附近風梨園縊死。聞死因爲和某有疑。被嘉義郡警察署拘去訊問。因病氣釋放治療後。悲觀自殺云。

繪死鳳梨園

嘉義郡竹崎庄樟腦工人陳備。年三十九。去十四日午前七時頃。在其宅前附近風梨園縊死。聞死因爲和某有疑。被嘉義郡警察署拘去訊問。因病氣釋放治療後。悲觀自殺云。

臨時協議會前
廣谷市尹
先議小資融通

嘉義市十四日午前十時起。在市役所會議室。廣谷市尹。齊集各信用組合幹部。卽諮山信用組合陳際唐。鍾家厝。無盡會社秋吉惠。蔣。三氏。及中小商工業者等。役所則內海商工係主任。席上對於短期小額資金融通損失補償所關。最後之安綱。協議結果。日步總定二錢。

外出高女生
偕兄歸北

前程預圖。不肯歸家。之外出高女生。橋木和枝。遠去十五夜。已僧北歸兄橋本高雄氏歸北。不歸。大正町。鎭產完畢。同時召集都下甲乙種巡查。在北署講習。署長。木村。警部。矢野。十六日午前八時半起。十七日午後七時。散會。

學校運動

那下好敵。恣發揮。本年仲季運動會。去十三日午前八時半起。開於同校庭。參加員。男女生徒。全部出席。午後三時。閉會。

北港

事務監查

北港郡役所監查。昨日。去十日起。施行書面監查。去十日起。施行書面監查。來十九日。臺中重。

斗六

裝飾品評

斗六女子公學校。訂來十八日。擬。二番地。陳。福。去。十日。臺中。

海事諸法
晉京磋商

松下海事官。關海事法規改正。晉京與主務者磋商。十五日歸臺。語次。

舊自動車助手
行竊就捕

新竹市六家庄安溪寮五番地。藍彩。年二十八。去十五日午後九時半。發見。在自宅中。與頭前七時頃。在其宅前附近風梨園縊死。聞死因爲和某有疑。被嘉義郡警察署拘去訊問。因病氣釋放治療後。悲觀自殺云。

磯崎鎭長
被控橫領

嘉義郡竹崎庄樟腦工人陳備。年三十九。去十四日午前七時頃。在其宅前附近風梨園縊死。聞死因爲和某有疑。被嘉義郡警察署拘去訊問。因病氣釋放治療後。悲觀自殺云。

斗六

裝飾品評

斗六女子公學校。訂來十八日。擬。二番地。陳。福。去。十日。臺中。

臺中

壯丁檢閱

臺中。北斗。北斗。臺中。

乳牛檢查

臺中州。臺中內各牛乳場。自去十日起。施行。第十。結核病。檢查。

檢查種牡

臺中州下。本年度。定期。種牡。

彰化

社寺檢查

彰化郡下所有。社寺。刻字。有金品。損。臺。自十七日。起。施行。規定之法。定刑中。欲科以最極刑者。從而若非科以懲役刑。以剝金刑未得防遏犯罪。然後求刑如左。

高雄署破獲阿片案
發見隱匿宅中五百餘罐
傳與碇泊中某船員授受

高雄警察署。周黃兩刑事之。並帶莊胡。並其長男莊文華。年二十五。到高雄署。開始取調。風聞目下有泊碇高雄港中之支那船某二十二日。對今岸密輸入前。內有某。

臺南蓬萊米躍進
每甲十八石記錄
再兩三年合見全盛

臺南州下之耕作蓬萊種。昨年一百二十萬石。增收率。逐以南部地方。爲不一千圓云。

五名救起
二名踪跡不明

基隆郡瑞芳庄深澳人。林。去十四日。臺中。

青年之夕
在樺山小學校

十六日。臺北市。乃于同日午後六時半。在樺山小學校講堂。開青年之夕。青年團主催。

軍事映畫

帝國々防思想映畫傳會。以長崎鄉人會得援助。

永定怪力惡童駭聞
生啖年纔二歲幼孩
害得其母飲魚藤汁自殺
後載往汕頭尙窮於處置

永定縣上赤坑地方。有農人張健者。娶上忠坑胡氏爲妻。夫在田間工作。胡出發歸。忧獰之情甚露。張行年三十。始生一子。滿愛殊甚。命名曰義銓。性情兇暴。有過人勇力。嗜好如猿。幼年時與鄰中孩童在田野中嬉戲。無一肯隨紛役其父母。每日在外鄉逃事。現年纔二歲。九月十一日。父母下田。往田中工作。同屋人亦多外出。屋中有年稚二歲之一子。然處置。張右衷兒甘泡者。

澎湖

颱風三見

去十一日夕。天氣陰晴。風雨交加。午後漸烈。翌日未停。暴風雨。近來鮮見。加以潮水高漲。海水倒灌。全島陸地。悉成澤國。人民驚惶。無所措手。

時評

○
學士行幸土業獎勵傳。及。
○
留易額。震災之。兆注於國。
中小商工業之振興。可以拜察年。
○
東京此之暴。風雨水害。
稱十年來。。自大。有不測。
○
奧其巧遲。寧室揣連也。
○
組織大化。及低資融通。
○
不願貴買。農家迫於金融。
欲急釐革。是時必有相當。
○
風雲。
○
軍縮之案。到底難免同床。
異夢。
○
年間告迫。各處之等設產。
○
先是十餘年前。當手工教。
授萬能之際。一部認識不。
足之教員。亦盛論本島人。
○
本年本島人高文合格者。
行政科有林文碩。黃百祿。
察事務諸氏。司法科有林。
旭昇。黃運金。林挺生。
林登輝。楊添福。林桂端。
諸氏。皆堪高等試驗也。
○
催外交科合格者。皆內地。
人之東大出身者。或在學。
生。無論今之書年。甲種。
東大。
○
長於手工藝。腦力却遜。
今則高文合格者先。後發出。
幸而此種認識不足之遺傳。
早歸於無何有之鄉矣。
○
反滿的書信。悉係被。
學良所使嗾之流。東北大。
學學生所發煙物。
○
三。蒙古各旗代表。
七十萬蒙古族。肇明報。
告書之誤擊。
○
將徹底討伐敗殘兵。
拜泉附近敗殘兵二萬。以。
部文於中心而集結。我軍。
近將徹底的討伐之。
○
宇垣總督訪問拓相。
宇垣總督。十六日午前十。
時二十分。訪永非拓相。
現在政況及來年。
度豫算。
○
齋藤首相將訪園公。
齋藤首相。來十九日午前。
九時。東京驛發。將往興。
津。訪西園寺公。報告最。
近政情。來年度豫算編成。
結果等。
○
陸海軍追加承認額。
大藏省十五日後算省議。
審議陸海軍豫算追加承認。
額。
一、總額於決定額以內者之。
一、除海軍第二次補充計。
畫。後年度豫費。務不。
以此方針。
欲認定。
以內省折衝。

臺灣日日新報

昭和七年十一月十七日　第一萬一千七百十四號

漢文臺灣日日新報

昭和七年十一月十七日　第一萬一千七百十四號

臺灣唯一漢文日刊新聞
臺灣日日新報社
臺北市榮町一丁目
電話本社(三)一三番
支社(三)一四番
臺中支社(二)一三番
臺南支社(二)一三番
高雄支社(二)一三番
花蓮港支社(二)一三番
臺東支社(二)一三番
澎湖支社(二)一三番
基隆支社(二)一三番
新竹支社(二)一三番
嘉義支社(二)一三番
屏東支社(二)一三番
宜蘭支社(二)一三番
東京支社(銀)一三番
大阪支社(北)一三番
神戶支社(生)一三番
廣告部(三)一三番
印刷部(三)一三番

斗六
一醫院
醫學士　張筑峯
診療時間　午前八時至十二時　午後一時至五時
休診日　每月一日十五日二十五日
臺北市榮町二丁目
服地臺灣地產會社
電話(三)一三番
大和町二丁目二五番地